

東海地区

大学図書館協議会誌



68

2023

東海地区大学図書館協議会

東海地区大学図書館協議会誌 第68号 2023

目 次

巻 頭 言	大学図書館とは？ - 自らの過去を振り返り考えてみる - 岐阜薬科大学 附属図書館長（教授）	北市 清幸	1
講 演 要 旨	ハゲタカジャーナルとプレプリント EBSCO Information Services, Japan	花田 謙一	2
講 演 要 旨	チャットボット導入体験談 大学図書館における利用者相談の新しい形 - いつでも、どこからでも - 名古屋大学附属図書館	浅見沙矢香 直江千寿子	21
講 演 要 旨	名古屋女子大学図書館における教員へのアプローチ事例 名古屋女子大学学術情報センター	北村 咲	26
講 演 要 旨	大学図書館の活動を可視化するデータ活用の実務 - 図書館利用統計・学術情報基盤実態調査・決算データ・利用者アンケートから - 名城大学附属図書館		30
行 事	第77回東海地区大学図書館協議会 総会・研究集会		38
施 設 紹 介	南山大学ライネルス中央図書館		44
会 則 等			46
総会当番館一覧			51
加盟館一覧			52
役員館一覧			56
研修会一覧			58

大学図書館とは？ ー自らの過去を振り返り考えてみるー

岐阜薬科大学 附属図書館長（教授）

北 市 清 幸

岐阜薬科大学は私の母校です。その後、20年余りを経て母校の教員として大学に戻り、令和3年（2021年）から附属図書館長に着任しました。まさか私が図書館長になるとは、思いもよりませんでした。

本学の現在の附属図書館は昭和57年（1982年）10月に開設されました。私の大学入学は昭和59年（1984年）なので、私は竣工間もないピカピカの図書館を使っていたことになります。以来40年近くが経過しましたが、趣のある経年劣化があるものの私が学生として在籍していた当時の図書館との変化はあまり感じません。これは歴代の図書館職員の皆さんが我が校の図書館に愛着をもって接していただいた賜物であり、本当に頭が下がる思いです。

さて私は図書館をどのように使ったのか？ 恥ずかしながら真面目な学生ではなかった私は本を借りるために図書館に行った記憶があまりありません。館内にも不案内であり、図書館長になってから職員の方々に館内を隅々まで案内してもらいこのようなところがあったのかと驚く始末でした。あの頃もっと図書館に行っておけば、と自らの館長としての資質の無さを今更ながら恥じるばかりです。一方で図書館の風景で最も記憶に残るのは定期試験前には多くの学生がひしめき合い、勉強をする姿。しかし、この時も私は、いつも遅掛けに図書館に到着しては空いている席を見つけられず、すごすごと図書館を退散し、学内で勉強場所を探したことを思い出します。図書館に足繁く通うようになったのは4年生になって研究生活を始めてから、文献調査のためにIndex Medicusを引きながら、論文を検索しました。これは修士修了まで続くことになりました。これが私の母校の大学図書館の記憶になります。

母校の附属図書館長となり、大学図書館の今を2年強見つめてきましたが、学生の図書館でのなりわいには変わらぬものと変わったものがあるようです。定期試験前に多くの学生が図書館に集って勉強する姿は今も変わりません。一方で高騰が話題となっている電子ジャーナルを含む電子媒体が普及した現在、本を借りに来る学生や研究に関わる調査をする学生が図書館に来ることはめっきり減ってしまいました。

「新しい酒は新しい皮袋に盛れ」の諺にもあるように図書館には新たな仕掛け、仕組みが必要なようです。東海地区の大学図書館でもそのような新しい試みをされていることは言うまでもなく、ラーニングコモンズなど新たな機軸をすでに導入している図書館も多いこととされます。本学は2028年にはキャンパス統合を予定しており、40年間我が校を支えてきた現図書館には別れを告げます。どんな図書館になるのか、大変楽しみです。まだ、設計段階なので皆様にもご意見を頂ければと思っています。

さて、今年の第77回東海地区大学図書館協議会研究集会は10月11日に「大学図書館とAI、ChatGPT」のタイトルで開催されました。皆様のご参加に岐阜地区の主催3館うちの1館として心より感謝申し上げます。当日は、情報科学芸術大学院大学の小林 茂教授には、「大学図書館と大規模言語モデル」とのタイトルで、東邦大学の橋本郷史先生には「ChatGPTを使ってIMRaD形式の原著論文が書けるのかを試してみた件」とのタイトルでご講演を頂きました。いよいよ進むAI化とChatGPTの普及。皆様にとっても新たな知見を得る有意義な会になったのではと思っています。私もこの講演を拝聴し、本学の新しい大学図書館についてChatGPTにも意見をもらおうか、そんな気になりました（笑）。

新たな時代の学生のため大学図書館。皆様、是非、一緒に考えていきませんか？

ハゲタカジャーナルとプレプリント

EBSCO Information Services, Japan

花田 謙一

ハゲタカジャーナルとは？

「悪貨は良貨を駆逐する」これは16世紀の政治家トーマス・グレシャムの有名な言葉である。ここでは悪貨を精査ないし査読されていない、つまり信頼できない論文、一方で良貨を査読され質保証された信頼できる論文と置き換えてみてほしい。

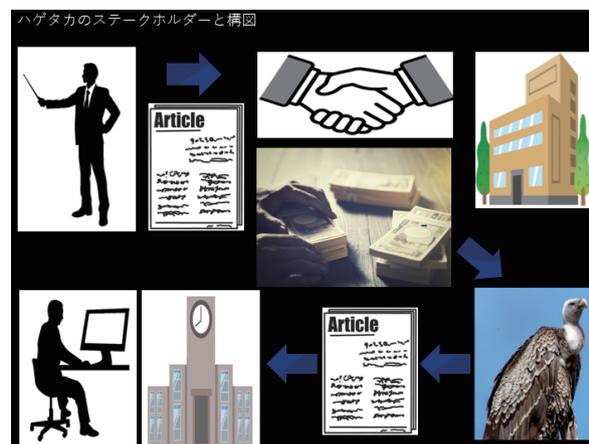
詳細を語る前にまずハゲタカの定義を明らかにしなければいけないだろう。実はこれまでにその定義は変遷してきたが、現在、共通認識とされているのは以下である。

「学問を犠牲にして自己の利益を優先し、虚偽または誤解を招く情報の提供、最善の編集・出版慣行からの逸脱、透明性の欠如、積極的かつ見境のない勧誘活動の特徴とする団体、出版社」

平たく言うと、科学への信頼性よりも己の利益を優先するのがハゲタカジャーナルといえる。ここでの利益とは経済的な利益を指し、具体的には論文投稿料（APC）を指す。このAPCは論文をオープンアクセスとするときに発生する研究者から出版社に支払う手数料だという理解でも差し支えない。ハゲタカジャーナルは本文を世界の誰もが無料で読めるオープンアクセス（OA）の一種であるが、経済的な利益の最大化が究極の目的なのだからわざわざ金銭的、人的なコストのかかる編集や査読は基本行わない。これでは論文の信頼性は揺らいでしまう。

オープンアクセスは年々増加しており、2022年現在で約3割がオープンアクセスと言われており、同時にハゲタカジャーナルも増加して、かつ巧妙になっている事実は看過できない。

ところで、ハゲタカジャーナルは学術の世界の問題だと思われがちであるが、実は我々の身近な生活にも存在している。例えば、サプリや健康食品、製薬、がん治療を含む医療、環境分野などである。



人の健康・生命に直接関わる医療にもハゲタカジャーナルが関わっているという事はインパクトがあるだろう。医療には科学的な根拠（エビデンス）のある標準治療とそうではない自由診療の二種類がある。クリニックなどでは自由診療に該当する治療法の正当性をアピールするためにお金を出してハゲタカジャーナルを利用するケースがあるという指摘もある。

専門家でない患者やその家族、市民が英語、かつ医学の専門用語で書かれたハゲタカ論文を理解できるのだろうかという疑問は残るままである。

では、なぜハゲタカジャーナルが排除されなければいけないのかという根源的な問題について考えてみたい。

① 著者（研究者）のキャリアの毀損

- ② 大学などの所属機関の評価の低下
 - ③ 科学への社会からの信頼の低下
 - ④ 査読ジャーナルの形骸化
- などが挙げられよう。

一方で「ハゲタカは悪だ、駆逐されなければいけない」という今の風潮に注意を促す見解があることにも言及しておきたい。

ハゲタカジャーナルは年々巧妙化しているので、軽々にハゲタカ認定ができないのも事実である。ハゲタカジャーナルの具体的な見分け方は後段で触れるが、残念ながら一つの基準だけでは認定できないのである。まっとうなジャーナルにも関わらず、もしハゲタカ認定をしてしまうと以下のような影響が想定される。

- ① 投稿した論文の著者（研究者）のキャリアの毀損
- ② 著者の所属機関（大学など）や助成機関の名声や評価の毀損
- ③ 出版社の評価と経営への甚大な影響

投稿料という経済的な損失だけでなく、それまで構築してきた何よりも大事な研究者、組織の信頼や評価を一気に壊しかねないのであり、絶対に冤罪は避けなければいけないのである。これは頭の隅において欲しい。

ところで、なぜ研究者は苦勞して書いた研究成果である論文をハゲタカ出版社に投稿してしまうのか、皆さんは疑問に思わないだろうか？ ジャーナル「Journal of Advanced Nursing」に挙げられている5つの投稿理由を紹介しよう¹⁾。

- ① 研究者がハゲタカに投稿する危険性についてそもそも認識していない。
- ② 論文の不受理を繰り返すことによる自信喪失。
- ③ 質よりも論文数で研究を評価されてしまう。
- ④ ハゲタカは正規のジャーナルに似せた名前を意図的に使うが、研究者側でジャーナル調査を怠ってしまう。
- ⑤ あえてハゲタカに投稿する（例えば、博士号取得や助成金を得るために）。

多数は①の研究者側の投稿リスクへの意識の欠如ないしリテラシー不足だと言われているが、⑤のように意図的にハゲタカジャーナルに頼るケースもあることは注目すべきだろう。研究者も「出版か死か、Publish or Perish」という言葉に表されているように論文数による評価という厳しいプレッシャーに日々さらされている現実も理解しなければいけないだろう。この問題は研究評価をどうすべきかという課題にも関係してくるのである。

ここまででハゲタカジャーナルの霧は少し晴れてきたであろうか？

これからハゲタカジャーナルの特徴について具体的に掘り下げていこう。

キャプチャ1は私の方でハゲタカの特徴をまとめたものである。のちほど、ハゲタカジャーナルの見分け方で詳しく解説するので委細は割愛するが、ここで注目頂きたいのが8と9の項目である。ハゲタカジャーナルは我々が学術の世界で利用している評価指標や識別子とは似て非なるものを利用してアピールしてくることをご存じであろうか？

学術情報の世界で共通言語となっているジャーナルの評価指標の一つにインパクトファクター(IF)があることは異論ないところであろう。この正規のインパクトファクターの特徴としては、論文がどれだけ他の論文に引用されているかという被引用の概念が必須という事である（キャプチャ2を参照）。

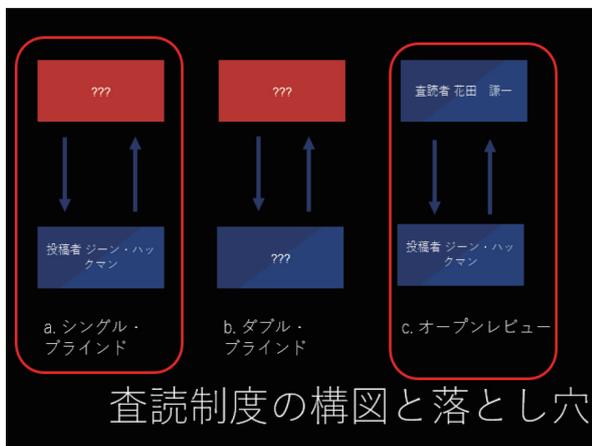
ところが、似て非なる評価指標は名前こそ似ているが、内実はまったく異なるのである。

例えば、偽の評価指標を提供するある企業（我々が学術の世界で使う指標でない意味で）のホームページにおいて①受理とリジェクトの割合、②著名なデータベースにどれだけ索引ないしインデックス化されているかという一見まっとうな基準を掲げてはいるが、肝心の被引用については触れていないなどである。これらはあくまで一企業の基

準に過ぎず、学術情報の世界で利用されている評価指標とは異なるケースが散見されるのである。つまり、研究者側で目的のジャーナルのインパクトファクターが高いと誤認識してしまい、論文をハゲタカ出版社に投稿してしまうケースがあるのである。この場合、出版社側で受理の撤回に応じない限り、二重投稿の禁止の原則に照らして、研究者は他の出版社に投稿できないのである。どれだけ理不尽であっても。

しかし、学術情報流通の世界で利用されている評価指標と識別子をきちんと理解できればいたずらに恐れる必要がないのも事実である。今一度、評価指標の一つであるインパクトファクターや識別子の一つであるDOIをキャプチャ3で確認してほしい。

冒頭でハゲタカジャーナルの特徴の一つとして、査読の欠落または欠陥であると述べたことを思い出してほしい。査読の概要の現状について、以下で理解してみよう。



まず、投稿者である研究者の名前は明らかになっているが、評価する側、つまり、査読する側の研究者の名前は明らかになっていないシングルブラインドモデルが現在の主流になっていることは押さえてほしい。

その他、投稿側、評価側ともに匿名になっているダブルブラインドモデルやどちらも透明化しているオープンレビューモデルの3つがある。ハゲ

タカ出版社は主流であるシングルブラインドの特徴である査読する側の匿名の部分に付け入っているのである。一方でブラックボックスの要素を排したオープンレビューだとハゲタカの付け入る隙が少なくなると指摘されている。だから、将来においてシングルブラインドからオープンレビューへの移行が期待されている。ではなぜ、急速にこの動きが拡大しないのか不思議に思う読者もいるかも知れないが、例えば、若手の研究者が評価ないし査読する立場になったときに実績のある年配の研究者に忌憚なく論文内容の修正を要求できるであろうか？これは研究機関のだけでなく民間企業でもあり得ることであり、非常に根深い問題でもある。

さらに、研究者とハゲタカジャーナルはどのように出会ってしまうのだろうか？この疑問に答えてくれている興味深い論文がある²⁾。

ハゲタカで出版した研究分野と著者の地域

Fields of study	Number	Percentage
Medicine and Medical Sciences	23	28.8
Education	15	18.8
Social Sciences	12	15
Basic Sciences	8	10
Agriculture	7	8.8
Engineering	5	6.2
Communication and Writing	2	2.5
Food Science	2	2.5
Animal Sciences	2	2.5
Microbiology	2	2.5
Physical Therapy	1	1.25
Nutrition	1	1.25
Total	80	100

Countries	Frequency	Percentage
Asia	26	32.5
Africa	21	26.25
Europe	15	18.75
North America	10	12.5
South America	8	10
Total	80	100

【引用文献】
Salehi, M., Soltani, M., Tamleh, H. & Teimourbebad, S. (2020). Publishing in predatory open access journals: Authors' perspectives. *Learned Publishing*, 33(2), 69–95. <https://doi.org/10.1002/leap.1361>

Q.TAKE2 著者の研究分野
医学系が多い。これはAPCを支払う能力や論文を出す需要の大きさを反映している可能性が高い。
つまり、査読のない健康にかかわる医学論文が大量に出版されている危険性あり。

Q.TAKE1 著者の地域

物事は複雑に見えても内実は2割に本質が集約されるという法則がある。私はイタリアのこのパレートの法則（いわゆる2：8＝ニッパチの法則）を常に意識している。この法則に従うと、研究者とハゲタカとの接点として、

- ① メールによる案内
- ② ネット検索
- ③ 上司や同僚による推薦

の三つが主要な理由になっている（キャプチャ3を参照）。

メールによる案内については2015年にポーラン

下の研究者の発表によると不特定多数にメールを送ってくるスパムメールの8割がブラックリストに記載ありだという指摘（キャプチャ4を参照）が参考になる³⁾。

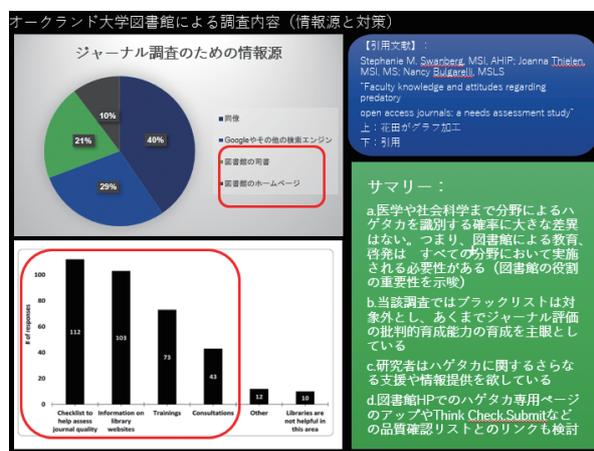
また、③の推薦は一見、もっとも安心する形だと思いがちであるが、その推薦者のリテラシーが不足していて善意でハゲタカジャーナルを薦めてくるリスクも考慮されるべきではないだろうか。私の知己の国内の研究者でも実際にその被害に遭っている。欧州のことわざにある「地獄への道は善意で敷き詰められている」というのは言い過ぎであろうか？

さらに、上のスライドはハゲタカジャーナルに投稿している分野であるが、医学が最も多いことが分かる。この背景として、論文投稿料の支払い能力やハゲタカジャーナルに投稿するニーズの強さが関係していると指摘されている。

しかし、ここで注目したいのはその他の分野である。意外にも教育や社会科学などの文系の分野も上位にランキングされていることが分かる。ハゲタカの及ぶ分野はSTM（科学・技術・医学）系だけに留まらないことが見て取れよう。

つまり、啓発の対象者は理系に留まらず、文系も考慮すべきだとこのデータは示唆している。

これを裏付けるオークランド大学図書館の興味深い調査結果がある。この大学図書館では以下のようにジャーナル調査のための情報源に関する調査を行っている⁴⁾。



そのジャーナル調査のための情報源であるが、同僚の推薦、次にGoogleといった検索エンジンが上位に来ており、一番頼るべき図書館やそのHPの利用は後塵を拝している。

また、当該調査では研究者が図書館に求めるハゲタカジャーナル対策として、

- ① ハゲタカを判別するためのチェックリストの作成
- ② 図書館HPでの情報提供
- ③ 講習会ないしワークショップの開催
- ④ 個別相談

が上位を占めていることが分かる。

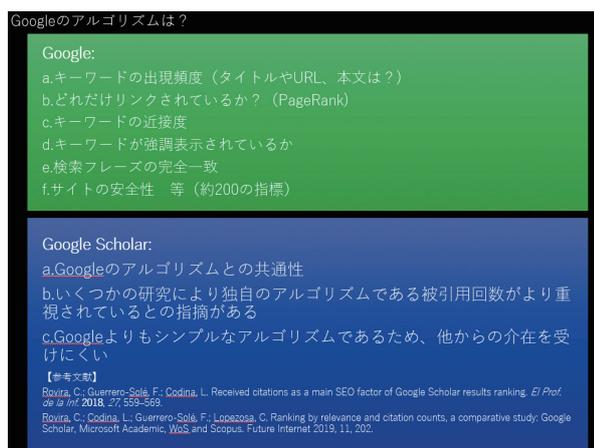
さらに当該論文における文系、理系といった分野間の差異はほぼないという指摘は注目に値する。つまり、ハゲタカ対策は分野を差別することなく行う必要があるということである。

ここまでオークランド大学図書館の事例をご紹介したが、海外の大学図書館はハゲタカ対策に一步踏み込んでいることが分かる。一方で国内の大学図書館について、毎日新聞の記事によれば実際にハゲタカ対策を実施している大学は3割に満たない⁵⁾。国立は約8割、公立・私立で3割と乖離が生じているが、その具体的な対策も注意喚起やパンフレット作製に留まるケースが多く、コンサルや講習会まで実施しているのは国立、公立、私立問わず2割にも満たない。国内の大学図書館もオークランドランド大学図書館のアンケート内容は参考になるのではないだろうか。

ところで、検索エンジン最適化（SEO）という概念をご存じでしょうか？これはGoogleやYahooといった検索エンジンの検索結果において自分のサイトを上位に位置させるかという技術一般を指す。例えば、営利企業にとっても検索エンジンに限らず、Amazonなども含め、その検索結果の上位に自社の製品ないし企業情報が来るかどうかは死活問題なのである。米国国立医学図書館（NLM）の2018年の調査結果によればネット利用者の80%から90%が検索結果の1ページしか閲覧

せず、その多くが2ページ以降に遷移しないというレポートを出しているが、自分自身の経験則に照らしても得心するところである。

ここで触れている検索エンジンであるが、実際の検索エンジンの市場占有率の9割はGoogle社が占めていると言われている。したがって、学術文献で触れている検索エンジンは事実上GoogleまたはGoogle Scholarという理解でも問題ないだろう。



検索エンジンにおける検索結果上のポジショニングをめぐる争いは熾烈であるが、実は無縁に思えるGoogle Scholarといった学術検索エンジンでも検索エンジン最適化が行われているのである。これはASEO (Academic SEO) と呼ばれ、最近、注目されている概念である。そもそも学問の世界でなぜ検索エンジン最適化のニーズがあるのか疑問に思う人もいるかも知れない。しかし、研究者の立場だと自分の論文を多くの人に読んでもらい、たくさん引用してもらいたいという切実なニーズがある。それが研究者としての評価になるのだから論文の可視化によって検索エンジンの上位に表示されることは重要な要素の一つになるのは必然とさえ言えよう。

ここで留意したい点がある。Google社はアルゴリズム (検索の仕組み) を公開していない事実である⁶⁾。正確にはしたくてもできないともいえる。なぜなら、この仕組みを公開してしまうと企業などに検索結果をコントロールされてしまうリ

スクがあるからである。だから、Googleがそのアルゴリズムを頻繁に変更していることはよく知られている。例えば、これまである情報が1ページに出ていたのに、ある日から当然、5ページなどにヒットする、同じキーワードでの検索なのにある日から結果内容が大きく変わったといったケースがこれに該当する。

そして、GoogleとGoogle Scholarのアルゴリズムに差異はあるのかであるが、共通性は多いものの両者にとって決定的な相違が一つある (あくまで推測)。それは論文の被引用数 (その論文が他の論文にどれだけ引用されたかを数値化したもの) である。Google Scholarでは例えば引用元 (1320) といった形で表示されるが、この被引用回数の多さが重視されているのは各種文献からも間違いのないところであろう。

[HTML] COVID-19: immunopathology and its implications for therapy
X Cao - Nature reviews immunology, 2020 - nature.com
... efficacy in non-COVID-19-related pathologies, clinical trials of MSC-based therapy in patients with severe COVID-19 have been initiated in China and two trials are currently ongoing. ...
☆ 保存 卵引用 引用元 1409 関連記事 全 14 バージョン

[HTML] Covid-19—navigating the uncharted
AS Fauci, HC Lane, RR Redfield - New England Journal of ... 2020 - Mass Medical Soc
... the current report, we should be prepared for Covid-19 to gain a foothold throughout the world. ... A robust research effort is currently under way to develop a vaccine against Covid-19. We ...
☆ 保存 卵引用 引用元 1797 関連記事 全 38 バージョン

ある意味、Google Scholarの方がGoogleのアルゴリズムよりもシンプルなのである。このシンプルであるがゆえに、Googleにありがちな分かりにくさ、複雑性 (なぜ、このサイトが上位に来るのか?) がより少なくなるともいえる。

しかし、このGoogle Scholarにもバイアス (偏り) があるという指摘がある⁷⁾。具体的には英語の文献が優先的に検索結果に表示される仕組みになっているという内容である。(例えば、最近ではCovid-19)。英語以外の言語の論文の場合、どれだけ多く引用され、質が高くてもほとんど読まれな可能性が出てくることになる。100ページ目に文献が出てきてもどれだけの利用者がこれに辿り着けるであろうか。先に紹介した米国国立医学図書館 (NLM) のレポートからも明らかである。つまり、ASEOの視点からは英語での出版を選択した場合は学術文献の世界で圧倒的な利用数を誇るGoogle Scholarで優先表示される可能性が高くな

るのである。つまり、日本語などの他の言語は不利な立ち位置になるのではないだろうか。

このように検索エンジンにはバイアス（偏り）が存在することは知っておいて良いだろう。検索エンジンを提供するベンダーにはメディアのようにコンテンツの信頼性を担保する責任はないのである。求められるのはあくまで情報を提供するポータルとしての役割であり（最近はその内容責任への追及もされてはいるのだが）、情報を評価して利用するか否かの最終判断は利用者側にあることを今一度、肝に銘じて欲しい。

ハゲタカの選別ツール

ここまでハゲタカジャーナルの概念的な説明をしてきたが、ここから実際の対策ツールをいくつか紹介しておこう。

① Think Check Submit「考えて、確認して、提出しよう」（無料）：

<https://thinkchecksubmit.org/>

これはオークランド大学図書館の調査において、ハゲタカ対策でもっともニーズのあったチェックリストの代表格であると言ってよい。これは出版社、関連団体が立ち上げたサイトである。特定のジャーナルを推奨するものではなく、設問に答えながら、ハゲタカをふるい落とす形になっている。日本の大学図書館によるチェックリストもこれを参考にしているとも言われているので、一度確認してみる価値はある（インターフェースの言語切り替えも可能で、日本語も選択できる）。

そこで、私なりにこのThink Check Submitを参考に新しい選別基準である「JHM」を考案した（キャプチャ5を参照）。JHMとはジャーナル、ホームページ、マーケティングの略である。

当該選別基準ではThink Check Submitにいくつかの項目を追加している。それぞれの項目にチェックを入れてもらい、優先順位に沿って、ハゲタカのリスクを利用者で判断してもらうようにしている。Think Check Submitに需要がある利用者であれば一度試して頂きたい。

以下のURLからダウンロード可能である：

<https://www.dropbox.com/scl/fi/>

[iv5mu4jfjiqwuc6vuz3mg/JHM-Oct2022.xlsx?dl=0&rlkey=lhdxckuolr8hlw29fqlu6vqkk](https://www.dropbox.com/scl/fi/iv5mu4jfjiqwuc6vuz3mg/JHM-Oct2022.xlsx?dl=0&rlkey=lhdxckuolr8hlw29fqlu6vqkk)

Excelでダウンロードして利用いただくことを推奨する。

② DOAJ (Directory of Open Access Journals)（無料）：

<https://doaj.org/>

英国の非営利法人であるオープンアクセス・インフラストラクチャ・サービスが管理・運営しているオープンアクセスでは最も有名なプラットフォームである。フルオープンアクセスジャーナルを約18,000誌（2022年現在）収録し、日本のジャーナルも含め多言語収録であるのが特徴である。以前はスウェーデンのルンド大学が管理・運営していたことで知られている。これはMEDLINEやSCOPUS、Web of Scienceなどと並ぶいわゆるホワイトリストに該当し、つまり、これに収録されているジャーナルはハゲタカジャーナルでない可能性が高くなる。なぜなら、DOAJに収録されるには厳しい採録基準をクリアしなければいけないからである。

これらのホワイトリストはおおいに活用できる。しかし、先にお話した通り、シングルブラインドの査読モデルを採用している限り、どうしてもブラックボックスはできてしまい、そのジャーナル評価、調査の限界があることに留意頂きたい。あくまでもハゲタカかどうかを判断する有力な一材料として考えるべきであろう。

③ Master Journal List（無料）：

<https://mjl.clarivate.com/home>

これはインパクトファクター（IF）を提供しているクラリベイト・アナリティクスが管理・運営しているサイトである。

当該サイトでホワイトリストの一つであるWeb of Scienceに目的のジャーナルが収録しているかどうかを調べることができる。ここでジャーナル

の概要、発行頻度や言語などの一般情報、査読情報、Web of ScienceやPubMedへの索引情報、プレプリント情報まで確認できる（個人アカウントが必要）。

④ Beall's List (ビールズ・リスト / 無料) :

<https://beallslist.net/>

ハゲタカのブラックリストの嚆矢であり、ハゲタカジャーナルのテーマではこの名前を聞いたことがないというのはいずれもあり得ないだろう。コロラド大学の元図書館員であるジェフリー・ビールズが立ち上げ、管理・運営していたサイトである。毀誉褒貶はあれど、学術情報流通の世界に大きな影響を及ぼしたことは異論ないだろう。出版社単位でハゲタカ出版社をリストアップしており、約1,200社がリストアップされている（2022年現在）。

2017年に当該サイトの更新は停止しているが、匿名の有志によって非公式ではあるが現在も運営されている。今でも日本を含め、利用者は多いが、公式には運営が停止している、また責任の所在が不明瞭である事は留意すべきであろう。あくまでも判断の一材料とすべきである。

⑤ Cabell's List (有料) :

<https://www2.cabells.com/>

学術情報のサービスベンダーである創業40年のCabell's Internationalによって管理・運営されている。④のBeall's Listの後継のブラックリストとも言われている。個人運営のBeall's Listと異なり、有料ではあるが、4半期ごとにリスト更新や専門家による分析、さらには重要度に応じた70以上の項目設定と具体的なブラック認定理由を付記しており、より緻密、精緻なブラックリストになっていると言える。主に海外に顧客を抱えており、私が所属するEBSCOもその一つである。EBSCOはこのブラックリストであるCabell's Listの他にも先に紹介したホワイトリストや分野ごとのジャーナルランキングなどの多角的な評価分析を行ってEBSCOhostデータベースにジャーナルを収録している。したがって、EBSCOhostは学術文献検索ツールとしてだけでなく、ホワイトリストとして

もご利用いただけるものとなっている。例えば、大学図書館では米国のヒューストン大学図書館のようにこのブラックリストを利用して参考文献の回答を行っている。ここでは責任の所在を明確にしたうえで、客観的にハゲタカジャーナルかどうかを利用者に回答している。

これまで具体的な個々の対策ツールを提案してきたが、冒頭で申し上げたようにハゲタカジャーナルは年々巧妙になってきている。有料のツールだけでなく、今回ご紹介した無料のツールの組み合わせである程度判別できるのも事実である。日本の大学図書館もハゲタカジャーナルへの注意喚起やパンフレット作製だけでなく、今後は利用者のニーズを踏まえたより突っ込んだ形での研究支援が必要ではないかと考えている。なぜなら、国立大学だけでなく公立・私立大学においてもそのニーズは強まっていると感じているからだ。例えば、研究よりも教育を重視して論文投稿数が少ない国内の公立・私立大学でも貴重な研究成果である論文が研究者のリテラシー不足により喪失してしまうリスクがあるのであり、ハゲタカ対策は決して対岸の火事ではないのである。

「己を知り敵を知るもの百戦危うからず」という兵法家 孫子の有名な言葉に従うと敵であるハゲタカジャーナルをまず知ることが必要不可欠ではないだろうか。

新しい脅威に備えよ

ハゲタカジャーナルは年々形ややり方を変え巧妙になっている事は再三再四述べてきた。新しい形としては、例えば、ハイジャックジャーナルや虚栄出版が挙げられる。

まず、ハイジャックジャーナルであるが、これは正当なジャーナルの乗っ取りである。ISSNやタイトルが同じなので、見分けが付きにくく、かつSCOPUSやWeb of Scienceなどの著名なデータベースにも収録され易いという厄介な特徴を持つ。しかも、Googleといった検索エンジンの検索結果の上位に位置されることもあり、先だってご

紹介した検索エンジン最適化という技術も利用するケースがあると指摘されより悪質性が高いと言える。ただ、これまでお話してきたように一般のハゲタカと同じ特徴があるのも事実であり、そこでの対策も有効である。ハイジャックジャーナルのブラックリストも公表されており⁸⁾、このリストにおいて正当なジャーナルとハイジャックジャーナルが並列されている。ここでまったく同じタイトルのジャーナルが多い点に気づかされる。

このハイジャックジャーナルについては、国内の紀要を狙った事例も報告されている⁹⁾。ここでは正当な紀要よりも偽物であるハイジャックジャーナルのサイトが検索エンジンの検索結果の上位に位置していることが確認されており、かつ、著名なデータベースにインデックスされていることをそのHPにおいて宣伝していることも分かる（講演当日は実際にGoogleで検索して確認）。国内の他大学からの注意喚起が同じ検索結果上に表示されていることも確認できる。まさに同床異夢である。大学側の対策として、英語・日本語での注意喚起や当該サイトおよびプロバイダへの削除要請、紀要の検索エンジンの最適化などが挙げられている。つまり、所属機関の大事な研究成果である紀要が検索エンジンのどこに位置しているのか定期的なチェックが必要になるのではないだろうか。

また、毎日新聞の2022年9月16日付の記事において、国内の論文を含む大規模な全文盗用の事例が大きく取り上げられている¹⁰⁾。インドの複数の研究者による日本の論文を含む全文盗用（本文はパクリでタイトルと著者を変更しているだけ）であり、一つの学術誌が実績作りで利用されていると指摘している。しかも、掲載日をいじることによって、あたかもオリジナルの論文のように巧妙な細工も行っているというものである。

これもハゲタカの一つであるが、この毎日新聞の記事でハゲタカとして指摘している工学系のジャーナルのHPを実際に見てみよう。

- ① 出版社による論文の受領から出版までの期間（48時間）は査読を考慮しても妥当な期間か？
- ② HP上でIFは3.541（国内だとトップジャーナル）とあるが、はたして本物か？
- ③ HP上のコンタクト先はフォームのみか？（電話番号やメールアドレスは？）
- ④ HPでアピールしている索引、収録データベースはそもそも信用できるのか？
- ⑤ APC（論文投稿手数料）は明示されているか、仮に明示していても妥当な金額か？（高すぎても安すぎても赤信号）

上記の視点で精査するとさらなる調査、論文投稿の再考が必要なのが見える（演習として先にご紹介した選別ツールや基準に当てはめてほしい）。

ここまで述べてきたようにハゲタカジャーナルは論文をターゲットにしたものであったが、最近では書籍を狙った新しいモデルが登場している。虚栄出版（Vanity Press）でそれである。懇意にしている関西のある大学図書館員の方からの相談で知った新しいモデルであるが、具体的には、若手の研究者を狙って、まずAmazonなどでの自費出版を持ちかける。そして、自費出版のコストは出版社が負担するとして、執筆者である研究者はその論文の著作権を含めて譲渡させたいうえで高額に設定した書籍料を含めて、その出版社がすべての売り上げを搾取するのである。ハゲタカジャーナルとは多少毛色が異なる部分もあるが、その出版プロセスでは、出版社による査読は約束されず、品質管理も行われない意味ではハゲタカの一つだと捉えることも可能であろう。なお、この虚栄出版社はご紹介したBeall's Listでも取り上げられている（<https://beallslist.net/vanity-press/>）

さて、皆さんにここで思い出してほしいことは、研究者がハゲタカジャーナルに投稿する大きな理由の一つに「書いた論文をできる限り早く出版したい」がある。このニーズは理解できるが、何も

それを実現する手段がハゲタカジャーナルである必要はない。

早く出版する手段（メガジャーナル）

PLOSOne (プロスワン)	Scientific Reports
<ul style="list-style-type: none">・2006年創刊・姉妹ジャーナルとして、PLOS Biology, PLOS Medicineも有名・メガジャーナルの嚆矢・年間約3万本以上の論文を収録・近年の収録論文数の減少 <p>URL: https://journals.plos.org/plosone/</p>	<p>出版社Springer Natureが運営 強いブランド力 2017年に収録論文数でPLOS Oneを抜いた 日本の研究者の論文も多数収録</p> <p>URL: https://www.nature.com/srep/</p>

例えば、オープンアクセスであるオープンメガジャーナルもその有力な手段の一つである。例えば、PLOS OneやScientific Reportsなどである。

このメガジャーナルの特徴として、①分野、主題を問わない（桁違いの論文収録数）、②軽量査読（必要最小限の査読により、出版までの日数を短縮化）、③相対的にAPC（論文掲載料）が安価などである。

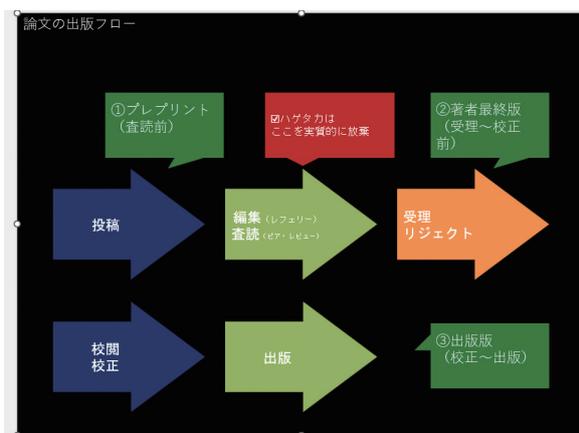
メガジャーナルの嚆矢として知られるPLOS Oneの論文掲載率は約7割と相対的に高いが（オープンアクセスは論文掲載料で成り立っている部分もあり、必然的に論文の掲載率は高くなってしまいう部分がある）、一方で査読はしっかりされているという評価もある。両メガジャーナルとも掲載論文数の多さの割にはインパクトファクターもそれなりに高い。

さらに、社会に自分の論文をいち早くお披露目したい場合は出版という形ではないが、プレプリントの形で公開する選択肢もある。現在はプレプリントの時代と言われていることをご存じでしょうか？

プレプリントを知る

「兵は拙速を尊ぶ。いまだ巧の久しきをみず」これも兵法家孫子の言葉である。とにかくスピードが大事だという事を示している。これは論文の世

界にもあてはまる。



論文の出版フローは図の通りである。プレプリントは出版前、かつ査読前の初期段階の論文ということになる。つまり、出版社による見やすさや質保証がされていないわけであるが、これの最大の武器はとにかく早く論文を公開できることである。まさにスピードが強みになっている。

このプレプリント論文を集約したサーバー、プラットフォームをプレプリントサーバーと呼んでいる。

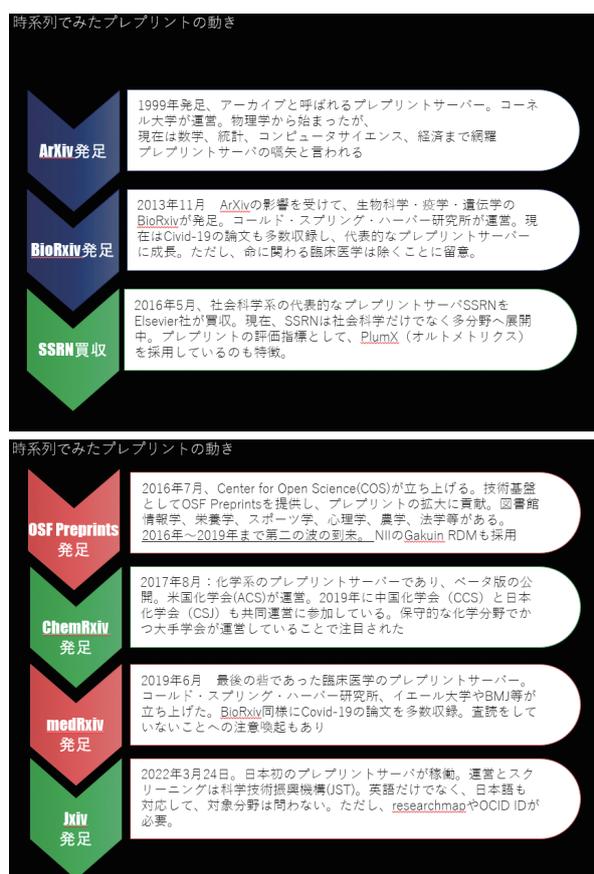
プレプリントについてはCovid-19の影響もあり、2022年現在もその投稿数は増加中である¹¹⁾。国別ではコールド・スプリング・ハーバー研究所や米国化学会（ACS）などを擁する米国がトップではあるが、日本でもその利用が増えていることが2020年のNISTEPの調査などで報告されている¹²⁾。この調査結果で興味深いのはプレプリントの入手経験は52.1%、公開経験は20.4%、さらには6割以上の研究者が今後プレプリントの利用が増えると認識していることである。もう海外に限定したトピックではないと分かる。

また、対象分野については多少利用のばらつきがあるようであるが、米国の非営利団体Center for Open Science（COS）が、プレプリントサーバーを容易に立ち上げることを可能とするサービスを開始したことが契機となり、物理学や生命科学、医学だけでなく社会科学や人文科学まで多分野に拡

大していることを指摘しておきたい。この拡大期は「プレプリントサーバーの第2波」と呼ばれている。

私がある国内の私立大学でのEBSCOhostの講習会で知り合った経済学の若手の教員からプレプリントの詳細について教えてほしいと質問を受けたことがある。理由としては若手としてはベテランの力が強い分野で勝負をしかけていくには、査読された論文だけでなく、最新の情報・論文をいち早く入手して、論文を書きたいという切実な動機があったことを記憶している。

ここでプレプリントの経緯・歴史を簡単に辿ってみよう。



プレプリントの嚆矢となったのは、米国のコーネル大学が運営するArXiv (アーカイブ) と呼ばれるプレプリントサーバーである。これは当初、物理学から始まったが、今では統計、経済、数学、コンピュータサイエンスまでその対象分野を拡げ

ている。毎月35,000件ほどの投稿があり、日本からも多くの利用があることは知られている。

このArXivの成功を受けて、生命科学を扱うBioRxiv (バイオアーカイブ) が立ち上がった。ただ、ここでは人の生命に直接関わる臨床医学は除かれることに注意を要する。その後、社会科学系のSSRN (エスエスアールエヌ) や化学のChemRxiv (ケムアーカイブ)、臨床医学のmedRxiv (メッド・アーカイブ) と続くことになる。最近では2022年3月に日本でJxiv (ジェイ・カイブ) が立ち上がったことは記憶に新しい。

このJxivでは科学技術振興機構 (JST) が管理運営し、分野や言語を問わず、プレプリントを投稿できる。これまで紹介してきた主要プレプリントサーバーは英語のみが投稿条件となっており、日本語で投稿できないのはネックとなっていた。例えば、歴史などの人文科学分野は母国語でこそ表現できる部分もあると指摘されており、日本語で論文を投稿できるのは大きな利点、強みであろう。

Jxivに投稿する条件としては、研究者の識別子に該当するresearchmapまたはORCID (オーキッド) を有していることになっている。インターフェースを見ても洗練されている印象で、先に紹介した論文や研究データの識別子であるDOIや研究成果などの二次利用の条件を明示するCCライセンスも表示できるようになっている。

立ち上がったばかりという事でまだ投稿数は少ないようであるが、国が支援する国内初のプレプリントサーバーとして、その啓発が進んでいけば今後利用は伸びていくものと思われる。

気になる点としてはプレプリントのメリットとデメリットではないだろうか？今はプレプリントの時代と言われているので、当然ながらメリットの方が大きいのは間違いない。プレプリントとしてネットに投稿するメリットを三点に絞ると以下になる (キャプチャ6を参照)。

- ① 査読前にネットで論文を流通させることができるので、市井の研究者や読者から貴重な

フィードバックをもらえる可能性がある。

- ② 論文は先に投稿したかどうかではなく、どれだけ早く出版したかで決まってしまう世界である。しかし、査読期間は長い。そこで、先にプレプリントサーバーに論文をアップすると登録日が記載されるので、他の研究者より先に論文を書いたことを証明できるのである（先取特権、優先権）。
- ③ 出版前に論文を社会に流通させることができるので、出版前であっても引用やSNSで取り上げられる可能性が高くなる。さらにプレプリントであっても引用ができることは押さえておくべきであろう。論文を共有する手段として広く利用されているResearch Gateやメンデレーなどに取り上げられることによってその可視性は一層高まり、オルトメトリクスといった論文評価指標の対象になり得る。
- ④ 先に紹介した識別子であるDOIの対象になるので、論文の流通や引用の促進が期待できる。例えば、国内でも著名なCrossRefのDOIの場合、出版版や著者最終版とは異なるプレプリント用のDOIが割り振られることになる。
(<https://www.crossref.org/documentation/crossmark/version-control-corrections-and-retractions/>)

ただ、プレプリントはDOI取得後、完全に消去することができない点は留意すべきである。研究者のキャリアのためにも安易にいい加減な論文をプレプリントに投稿すべきではないのである。言い換えると良い意味で抑止力になる。

一方でデメリットはないのか？以下が挙げられよう。

- ① 査読前のバージョンなので、当然ながら質保証がされていない。
- ② 今となっては少数派であるが、出版社によっては二重投稿規定に抵触するとして、プレプリント版の論文投稿を受け付けないリスク（論文を投稿する前に出版社の投稿規定を確認すべき）。
- ③ アイディアの漏洩リスク。
といったところであろう。

繰り返しになるが、分野を問わず、今はスピードが重要視される時代である。デメリット<メリットとなっており、分野を問わず、プレプリントが戦略的に有用なツールとなっていることは理解すべきだ。

ここで興味深いデータを紹介しよう。

“Identifying Scholarly Search Skills Based on Resource and Document Selection Behavior among Researchers and Master’s Students in Engineering”の調査によると学術文献の入手手段（国内の工学分野の研究者と修士の院生が対象）としてGoogleを含む検索エンジンの利用が非常に多いことが分かる¹³⁾。これは海外だけでなく国内もしかりである。学術文献の検索でもGoogleやGoogle Scholarの利用が多いことを再認識させられた。ただ、研究者と院生では検索エンジンの利用傾向が異なり、前者について検索初期はGoogleなどの検索エンジンの利用が多いが、論文執筆といった検索後期になるとその利用が減少して、電子ジャーナルやデータベースの利用が増える傾向があることを示唆している。一方で院生は検索段階を問わず、常にGoogleなどの検索エンジンの利用が多い特徴があるという示唆に富む指摘である。

当該論文ではプレプリントの国内利用は研究者が16.7%であり、学生の利用がほぼ皆無となっはいるが、分野によるニーズの差異、プレプリントの増加による今後の利用の急激な変化は十分に想定される。

私が調べた限りでは、学術文献検索で大きな存在を示すGoogleとGoogle Scholarでプレプリントを見分けるのは極めて難しいことが分かった。

ヒットする文献によっては該当する本文がプレプリント版かどうかを明記しているものもあるが、そうではない文献も多いのが分かる。そもそもGoogleはタイトルと本文検索を主軸とする検索システムであり、データベースのように書誌が必須ではないことは注意を要する。つまり、査読後の版なのか、査読前のプレプリントなのかといっ

た版の種別をGoogleで判別できるとは限らないのである。

Disaster on the Horizon: The Price Effect of Sea Level Rise *

Asaf Bernstein¹ Matthew Gustafson² Ryan Lewis³

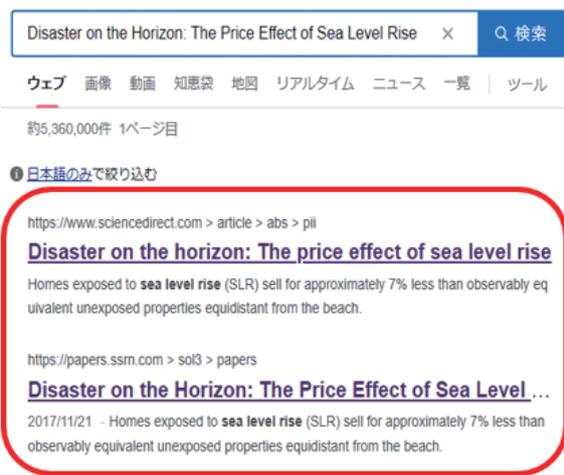
Original draft November 18, 2017

This version May 3, 2018

Abstract

Homes exposed to sea level rise (SLR) sell for approximately 7% less than observably equivalent unexposed properties equidistant from the beach. This discount has grown over time and is driven by sophisticated buyers and communities worried about global warming. Consistent with causal identification of long horizon SLR costs, we find no relation between SLR exposure and rental rates and a 4% discount among properties not projected to be flooded for almost a century. Our findings contribute to the literature on the pricing of long-run risky cash flows and provide insights for optimal climate change policy.

特にGoogleの場合、Google Scholarと異なり、同じ論文タイトルが検索結果上で重複して表示されるケースが多い。この場合は少なくとも検索結果上ではどの版かどうかは判別できない。判別するには論文タイトルをクリックするしかない。左の事例だと、下段の論文タイトルをクリックして初めてその遷移先がSSRNという著名なプレプリントサーバーであることが分かる。

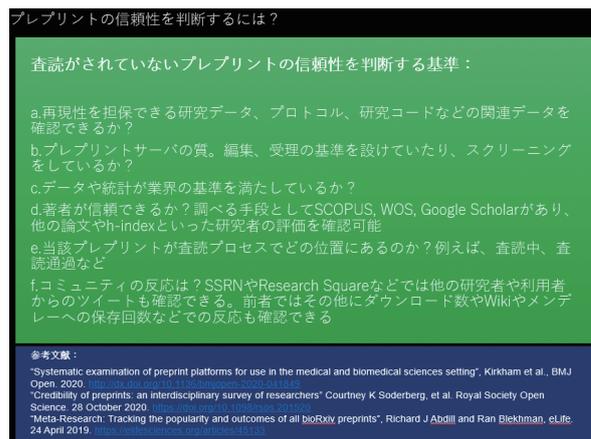


はたして、

SSRN (<https://www.ssrn.com/index.cfm/en/>) を知らない院生や学生、研究者がこのような判断ができるであろうか？つまり、検索結果上でヒットした論文が査読されているかどうかをすぐに判別できるかどうかを考えるべきフェーズに入ったと考

えるべきではないか？利用が多いGoogleやGoogle Scholarであるからこそこの課題を論じる意義は大きいと考える。

このように査読がされていないプレプリントであるが、自分で信頼性を評価する手段はないのであろうか？あまり知られていないが、実はあるのである。



上図のスライドのように見極めには少なくとも6つのポイントがある。

例えば、スライドのaだと再現性の視点では、当然ながらプレプリントであって論文だけでなく、研究データやプロトコル（手順）があった方がプレプリント論文の信用性は高まる。

また、プレプリントサーバーはいくつも種類があり、その扱う分野やスクリーニング（選別）の基準や編集体制なども異なる。そのディレクトリないしリストも公開されており、例えば生命科学分野の出版の促進をミッションとする非営利団体であるASAPbioが公開しているリストでは、それぞれのプレプリントサーバーで扱う分野、スクリーニング過程やバックアップ手段も明示され、プレプリントの投稿先の検討材料として利用できる（キャプチャ7を参照）。

さらに、プレプリントが出版過程の中でどのフェーズに位置するのかわかるプレプリントサーバーもある。例えば、Research Square (<https://www.>

researchsquare.com/)ではStatus(状況)として、該当のプレプリントがすでに出版されたのか、まだ査読中であるかが分かるようになっている。もし出版されたのならば信頼性は高いと利用者は判断できるようになっている(キャプチャ8を参照)。なお、このResearch SquareはSpringer Nature社によって買収された(プレプリントサーバーが大手出版社によって、買収され、出版フローに組み込まれている今の潮流は押さえておくべきであろう)。

また、スライド中のfのように統計(ダウンロード数)や被引用数(どれだけ論文が引用されたのか)、SNS(ツイッターやフェイスブック)によるコミュニティからの定性・定量的な反応でプレプリントの信頼性を判断できる場合もある。後者については、統計や被引用数によって定量的な分析が可能である。例えば、ツイッターだとリツイート数がこれに該当する。また、一部ではあるが、利用者からのフィードバックや評価を含むつぶやきまで閲覧できるプレプリントサーバーがあるのも注目である。

The screenshot shows a preprint page for "Some Simple Economics of the Blockchain" by Christian Catalini and Joshua S. Gans. The page includes a "Paper statistics" box with the following data:

Downloads	Abstract Views	Rank
41,233	115,907	53

Below the statistics, it shows 50 Citations and 44 References. At the bottom, there is a PlumX Metrics logo.

Elsevier社のSSRNの場合、PlumXというツールで統計、SNS、被引用などの統計を視覚的に示してくれている(イソギンチャクみたいな個所)。さらに、ツイッターの閲覧者からのつぶやきも出してくれるのが特徴的である。これによって国際共著論文が成立したという情報もあるので、軽視できないであろう。

詳しくは私の東海地区協議会研究会での講演論考を参照していただきたい¹⁴⁾。

国内のプレプリントの動向に関して、先に取り上げた2021年2月のNISTEPの報告書「[プレプリントの利活用と認識に関する調査]に興味深いデータがある。

NISTEPの当該調査によればプレプリントの研究者による検索ツールとして、8割以上がGoogleやGoogle Scholarなどの検索エンジンを利用されているというアンケート結果である。ここでもパレートの法則が当てはまっていることになる。GoogleやGoogle Scholarの利用が非常に多いとは推察していたが、プレプリントも例外ではないことになる。

一方で、プレプリントサーバーで直接検索する割合は約3割である。利用者の立場としては、研究分野に合致するプレプリントサーバーがないというケースもあるだろうが、データベース同様にどのプレプリントサーバーを利用したら良いのか分からない、つまり、認知度の問題もあると推察できる。どちらにしても汎用的なGoogleの利用が突出している現状を踏まえると、ここでのプレプリントの表記方法(タグ付け)は今後考えていかねばならない論点だろう。実際に汎用リポジトリ、機関リポジトリでのプレプリントを管理するための推奨基準が議論されているのである¹⁵⁾。

また、当該報告書において国内の研究者によるプレプリントの評価ないし判断基準として著者情報、全文、研究手法が上位を占めていることが分かる。私のような研究者でない人間がこれらの基準を使いこなすには正直厳しいものがある。当該報告書にあるアンケートでの割合こそ低いが、被引用数やダウンロード数、SNSでの言及数の項目は注目頂きたい。これらの項目はプレプリントの主題に関する知識が薄くても定量的に判断できる。もちろん、定量評価(主観ではない数値での評価)の限界は理解しているつもりであるが、実務で役に立つのも事実である。

私のような研究者でない人間にとって被引用数やダウンロード数、SNSでの言及数については当該アンケートが示す割合よりも割合が高くなる可能性がある。同時に抄録（Abstracts）の重要性もアンケートから見て取れ、データベースを扱う自分としては嬉しい気持ちもある。

最後に

「悪貨は良貨を駆逐する」トーマス・グレシャムの言葉を冒頭でご紹介したが、信頼性が担保されない悪貨であるハゲタカジャーナルが学術情報の市場に流通することは決して許されることではない。また、「巨人の肩の上に立つ」という言葉があるように、科学は先人の知見や視座の積み重ねなのであり、ハゲタカの跋扈はこの土台を瓦解させることにもなりかねない。それを防ぐためにも研究者がリテラシーを高め、学術情報流通に精通する大学図書館員が研究支援へ果敢にコミットすることを願ってやまない。

私は研究者ではなく、データベースベンダーの最前線の営業である。

最前線にいるから入手できる情報（この場合、合法的なヒューミント）や知識があると思っている。だからこそ、研究者とは違う視点での見解や論点を提示できるという信念を持っている。この論考が皆さんの参考になれば幸甚である。

注

- 1) Clark, A. M. and Thompson, D. R., "Five (bad) reasons to publish your research in predatory journals." *J Adv Nurs*. 2017 Nov; 73(11):2499-2501
- 2) Salehi, M., Soltani, M., Tamleh, H., & Teimournezhad, S. (2020). Publishing in predatory open access journals: Authors' perspectives. *Learned Publishing*, 33(2), 89-95. <https://doi.org/10.1002/leap.1261>
- 3) Kozak, M., Iefremova, O. and Hartley, J. (2015), Spamming in scholarly publishing: A case study. *Journal of the Association for Information Science*

and Technology. doi: 10.1002/asi.23521

- 4) Swanberg, S. M., Thielen, J., & Bulgarelli, N. (2020). Faculty knowledge and attitudes regarding predatory open access journals: a needs assessment study. *Journal of the Medical Library Association*, 108 (2), 208-218. <https://doi.org/10.5195/jmla.2020.849>
- 5) 鳥井真平. (2021, October 27). ハゲタカ誌対応、私立大3割に満たず 国立大は8割 文科省調査. 毎日新聞. <https://mainichi.jp/articles/20211027/k00/00m/040/148000c>
- 6) 大谷卓史. (2017). 過去からのメディア論 サーチェンジンの論理と倫理. *J-STAGE*. https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/60/2/60_132/_html/-char/ja
- 7) Rovira C, Codina L, Lopezosa C. Language Bias in the Google Scholar Ranking Algorithm. *Future Internet*. 2021; 13(2):31. <https://doi.org/10.3390/fi13020031>
- 8) Stef Brezgov - Hijacked Journals May 28, 2019 <https://scholarlyoa.com/hijacked-journals/>
- 9) 松本ゆかり. (2022). 紀要『札幌医学雑誌』を装った偽Webサイトへの対応. *医学図書館*, 69 (2), 79-82.
- 10) 鳥井真平. (2022, September 16). 粗悪な学術誌に盗用論文207本 インドの研究機関所属の複数研究者. 毎日新聞. <https://mainichi.jp/articles/20220916/k00/00m/040/120000c>
- 11) 野村紀匡. (2021). プレプリントの動向とプレプリントサービスのビジネスモデル. *情報の管理と技術*, 71(9), 408-413. https://doi.org/https://doi.org/10.18919/jkg.71.9_408
- 12) 池内有為, & 林和弘. (2021). プレプリントの利活用と認識に関する調査. <https://doi.org/https://doi.org/10.15108/rm301>
- 13) Hagiwara, Y., Ishita, E., Watanabe, Y., & Tomiura, Y. (2022). Identifying Scholarly Search Skills Based on Resource and Document Selection Behavior among Researchers and Master's Students in Engineering. *College & Research Libraries*, 83(4), 610. doi:<https://doi.org/10.5860/crl.83.4.610>

- 14) 花田謙一. (2020). 学術情報を俯瞰する. 館灯 (私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会), 58, 30-46. https://doi.org/https://doi.org/10.19006/kanto.58.0_70
- 15) Recommendations for Managing Preprints in Generalist and Institutional Repositories. (2022, December 12). ASAPbio. <https://asapbio.org/preprint-servers>

指標	特徴	備考
1 投稿料金(APC)	事前に具体的な金額を明示せず	金額は高いとは限らない
2 査読	欠落または欠陥あり	
3 出版スピード	異常に早い(2週間?)	通常は三か月、半年、一年スパンで
4 長期保存(デジタル)	していない	そのうち消えていく運命
5 品質管理(編集)	していない。稚拙な英語、スペル・文法のミスあり	校正をしていないから当たり前
6 住所や連絡先	非表示または偽装	ガレージ経営が多い
7 編集委員	勝手に名前を利用している	
8 識別子	DOIがない	偽の識別子の登場?
9 評価指標	誤った認識を与える評価指標の利用	インパクトファクター?
10 マーケティング手段	スパムメールの多用とSEO	Googleで正規のHPよりも上に位置するケースあり
11 ホームページ外観	立派、または稚拙	
12 APCの請求時期	受理(アクセプト)よりも前に請求	投稿からすぐ請求書を送るのはフライング
13 ジャーナルタイトル	正規の著名ジャーナルに似せる	
14 索引情報	著名なデータベースに索引付けされていると嘘の主張	
15 不正防止対策	盗作画像などの防止ヘコスト、リソースを割かない	
16 著者	実在しない	
17 巻号	発刊予定の号が未発刊、バックナンバーがランダム	

キャプチャ1：ハゲタカの特徴

おさらい：IFとDOI

インパクトファクターとは？

a. 引用数 ÷ 発表数 (=ジャーナルの論文数)

b. あるジャーナルの論文が、ある期間内に何回引用されたかを測定する方法

例として、あるジャーナルが2019年から2020年の間に36本の論文を出版し、それらの論文が2021年に152回引用されたとすると、そのジャーナルの2021年のインパクトファクターは (152/36) = 4.2となります。この場合、二年間の各論文が平均して4.2回引用されたことを意味し、これがジャーナルの評価になる。

論文の識別子であるDOI(Digital Object Identifier)とは？

- ① 国際DOI財団 (IDF)
- ② 登録機関(RA)として、[CrossRef](#) や [JaLC](#) など
- ③ 研究データの登録機関 [DataCite](#)

利点は？

- ① 永続性・流通促進 (URLの限界)
- ② 引用文献への埋め込み

キャプチャ2：インパクトファクターとDOIの正しい理解

ハゲタカとの出会い

TABLE 3 How authors discovered the journal in which they published.

Answers	Frequency	Percentage
Email invitation	26	32.5
Searching on the net	25	31.2
Recommended by others	11	13.8
Congresses and conferences	4	5
Editorial board	2	2.5
Did review for them	2	2.5
marketing campaign	1	1.26
Referral	1	1.26
Previous publication	1	1.26
Not answered	7	8.8
Total	80	100.0

【引用文献】：

Salehi, M., Soltani, M., Tamlah, H., & Teimourmezhad, S. (2020). Publishing in predatory open access journals: Authors' perspectives. *Learned Publishing*, 33(2), 89–95. <https://doi.org/10.1002/leap.1261>

TABLE 7 Reasons why the authors selected the journal in which they published.

Answers (26)	Frequency	Percentage
Fast publication	40	31.2
Low cost	19	14.8



Q.TAKE3 どのようにして知ったのか？

- a.メールからの招待
- b.ネット検索

つまり見分ける知識とノウハウの不足。所属機関による支援の必要性。

Q.TAKE7 なぜ選択したのか？

- a.早い出版
- b.低いコスト

キャプチャ 3：ハゲタカとの出会い

特徴：スパムメール



参考：ワイリー・サイエンスカフェ

2015年5月18日

「研究者にスパムメールを送りつける出版社の多くは「ハゲタカ出版社」 / ポーランドの研究者が、自分が受け取った約1千通のスパムメールを分析」

Kozak, M., Iefremova, O. and Hartley, J. (2015), Spamming in scholarly publishing: A case study. *Journal of the Association for Information Science and Technology*.

doi: 10.1002/asi.23521



①何かしらの金銭的な動機あり

②調査結果でホワイトリストであるDOAJに約8割がリストアップされていない、

7割以上がブラックリストであるピールズリストに載っていた

キャプチャ 4：スパムメール

JHMハゲタカ判断基準 (J=Journal, H=Homepage, M=Marketing)

Jジャーナル

Hホームページ

Mマーケティング

結果は？

①赤の数 (リスクが非常に高い項目)

ハゲタカの定義 「学問を犠牲にして自己の利益を優先し、虚偽または誤解を招く情報の提供、最善の編集・出版慣行からの逸脱、透明性の欠如、積極的かつ見境のない勧誘活動の特徴とする回

【留意事項】

※一つの基準だけで判断はできません。多角的に分析しましょう。

※JWHの無い出版初期のジャーナルは上記の基準の1~2つに該当する可能性が高いです。軽々にハゲタカ認定することを慎みましょう。

※まず自分で批判的に投稿しようとするジャーナルを分析しましょう。そして、この分析シートをチェック状況とともに図書館に相談することを推奨します。

※この基準にいくつあてはまりましたか？特に赤信号に一つでも該当したらさらなる検討が必要です。

※このモデルのヒントになったのは著名なThink Check Submitです。併せて参照してください (<https://thinkchecksubmit.org/journals/japanese/>)

分類	判断基準	留意事項	優先順位 (赤信号、黄色信号、チェック)
ジャーナル	一つの出版社による多数の新規ジャーナルの発行していませんか？	投稿料の採り取りの可能性と編集者や編集委員を短期間でそもそも確保できるのか？	赤
ジャーナル	一定期日の発行を予定していたにもかかわらず実際には発行されていないジャーナル (不定期) 複数出版-データベース掲載される論文の数が不自然に少ない (バックナンバー) 場合は危険かも		赤
ジャーナル	収録論文のスタイル、文法や内容の間違いはありませんか？	編集責任の放棄している可能性があります	赤
ジャーナル	上司や先輩、同僚などは当該ジャーナルを知っていますか？	有用な基準ですが、そもそもあなたの上司や同僚や先輩が学術情報流通関係に強い場合はむしろ危険です	赤
ジャーナル	SCOPUS, Web of ScienceやDOIなどで登録されたことはいくらですか？	ハゲタカに関する買収の指摘を受けた、またはインパクトファクターの数値の変化。	赤
ジャーナル	査読期間が異常に短くないですか？	査読にはそれなりに日数がかかります。少なくとも1~2週間程度で査読できるのは稀わしい。ハゲタカは編集も含めてコストのかかる	赤
ジャーナル	編集者からの自己引用の強制はありますか？	自誌を引用してもらうことによって被引用数、ひいてはインパクトファクターを稼ぐのが特徴です。自己引用は反則で	赤
ジャーナル	著作権の譲渡を必須としていませんか？	雑誌型とは異なり、オープンアクセスの場合、著作権の譲渡は一般的ではないようです	赤
ジャーナル	同じ論文が複数のジャーナルに収録されていますか？		赤
ジャーナル	編集委員の数と質は十分ですか？	ハゲタカ出版社が勝手に編集委員の研究者の名前を置いている可能性があります。編集委員のHPでこのジャーナルは載っていますか？	赤
ジャーナル、ホームページ	正規のインパクトファクターと誤解を招く評価指標や識別子の利用していませんか？	本物のジャーナルは偽物のインパクトファクターやDOIを利用する必要がないです	赤
ジャーナル、ホームページ	PubMed, SCOPUS, Web of Science, DOIといった著名なデータベースに登録されていますか？	これら著名なホワイトリストといえど完璧ではないし、そもそも登録されているとハゲタカが偽っている可能性もあ	赤
マーケティング、ホームページ	ジャーナル出版の他に学会参加料採取を目的とした学会を開催していませんか？	したがって、それぞれのデータベースで登録されてるが、確認する必要があります	赤
ホームページ	住所やコンタクト先がHPなどに明示されていますか？	ハゲタカ学会は参加料採取を目的にして、いろいろな分野を一切所に集約、著名な研究者の名前を勝手に宣伝に利用し	赤
ホームページ	論文投稿料がHPなどに明示されていますか？また、受理前に請求してきませんか？	HPに明示されているAPC (論文投稿料) は高すぎず、または安すぎませんか？	赤
ホームページ	明示されているAPC (論文投稿料) は高すぎず、または安すぎませんか？	論文投稿料にも相場があります。	赤
ホームページ	HPの質？例えば、スタイルや文法の間違い、ロゴの解像度が悪い、離れたレイアウト、デッドスペースが多すぎるHPにも注意、やはりどんなジャーナル、論文を出版しているかが大事です。	製薬や学術団体や論文校正サービスなどの学術に関連する組織でなく、クリーニングや育毛剤などの無関係な広告を表示している	赤
ホームページ	メールアドレスのセカンダリレベルドメインはありますか？		赤
マーケティング	詳細にスパムメールを送ってきませんか？	不特定多数に一斉メールはハゲタカの顕著な特徴の一つです	赤
マーケティング	その出版社はOASPAやCOPEといった出版社の権威ある関連団体に入会していますか？	ハゲタカ出版社がロゴの無断利用や勝手に会員だと語っている可能性があります	赤
マーケティング		(OASPAオープンアクセス学術出版協会、COPEは出版倫理委員会の組織の略称)	赤

キャプチャ 5 : JHMモデル

プレプリントのメリット・デメリット

メリットは？

- ①いち早く自分の論文を流通させ、投稿前に他からフィードバックをもらえる
- ②自分が先に書いたと優先権を主張可能
- ③出版前に引用 (DOI付与) やSNS等で評価してもらえる
- ④助成金の対象
- ⑤早期の研究成果 = 高いインパクト
- ⑥ドラフト (草案) の段階で投稿可能 など

デメリットは？

- ①査読がされていない (質保証が危うい)
- ②出版社によっては二重投稿とみなして投稿を受理しない危険性
- ③研究の横取り (漏洩) リスク など

キャプチャ 6 : プレプリントのメリットとデメリット

Preprint server directory

Columns Print Excel CSV Copy

Show All entries

Search:

Preprint server	Disciplinary scope	Ownership type	Screening processes	External content indexing	Permanence of content	Preservation of content	Commenting
✦ AAS Open Research	Multiple scientific fields, including health and wellbeing*	Funding organisation (funder)	Data is available (if applicable), Code is available (if applicable), All authors notified, One author affiliated with AAS, Legal compliance, Ethical compliance	Google Scholar, Prepubmed, Europe PMC, SciLit	Permanent with some removal options in exceptional circumstances	Preprints permanently archived in Portico	Commenting (including annotation plugins)
✦ Advance: a SAGE Preprints Community	Humanities and Social Sciences	Publisher	Content within scope, text overlap detection, ethical compliance, legal compliance	Google Scholar, CrossRef	Permanent with some removal options in exceptional circumstances	N/A (we don't have an arrangement in place currently)	Commenting
✦ AfricArxiv	All scientific fields	Academic community group; charity	Akismet spam filtering (automatic on all OSF content), Content within scope	Google Scholar, SHARE, Microsoft Academic, Unpaywall	Permanent with withdrawal option and some removal options in exceptional circumstances	COS Preservation Fund to maintain read access for 50+ years	Hypothesis

キャプチャ7：プレプリントサーバーのASAPbioのディレクトリ (2022年12月2日：https://asapbio.org/preprint-servers)

チャットボット導入体験談

大学図書館における利用者相談の新しい形 —いつでも、どこからでも—

名古屋大学附属図書館

浅見 沙矢香

直江 千寿子

チャットボット導入体験談
大学図書館における利用者相談の新しい形
—いつでも、どこからでも—

名古屋大学 附属図書館
浅見 沙矢香
直江 千寿子

目次

01 導入背景	04 利用状況
02 公開までのスケジュール	05 運用について
03 Zendeskのチャットボットとは	06 その他

Slide 2

導入背景

字内での動き

導入背景

01 大学におけるDX推進
定型業務の自動化・省力化
他部署での導入事例
本部による予算措置の可能性(?)

02 コロナ禍における利用者の利便性向上
いつでも、どこからでも利用可能
よくある質問に対応
有人サービスとの連携

Slide 4

導入背景

03 グランドデザインの制定とプロジェクトチーム発足

- ・ グランドデザイン2021
岐大・名大の両大学図書館が果たすべき機構図書館としてのミッションや方向性を示したもの
- ・ プロジェクトチーム (PT)
グランドデザイン実現に向け、重点領域毎に組織され、大学・系の枠組みを超えて職員が有志で参加



Slide 3

導入背景

プロジェクトチーム2021

- ① 学術情報リテラシー
- ② オープンサイエンス
- ③ 社会連携・社会貢献
- ④ 図書館DX
- ⑤ 蔵書構築
- ⑥ 図書館広報

図書館DXPT
2021年度のミッション

- ・ 両大学の図書館システム統合検討
- ・ **チャットボット導入**
- ・ 図書館オンライン相談の本実施に向けた運用検討

参考：メンバー 11名
(名大: 9名 岐大: 2名 オプザーバ: 課長)

Slide 6

公開までのスケジュール

導入検討開始から公開まで

公開までのスケジュール

	担当	作業内容
2021年 6月	PT (名大)	情報収集 (業者への見積依頼や導入済み大学・部署へ照会)
7-8月	PT	各係にQ&A作成依頼
9月	PT (名大)	チャットボット選定
10月	PT	ZendeskチャットボットをPTメンバーで無料トライアル (約2週間)
11月	PT (名大)	本契約、構築作業開始
2022年 1月	PT (名大)	構築作業完了
2月	PT (名大)	職員向け学内限定ページでテスト公開、フィードバック依頼
3月	PT (名大)	修正作業完了後、各図書館・室のWebサイトで公開・広報開始
4月	サービス担当	本運用開始

Slide 8

Zendeskチャットボットとは

Zendeskのチャットボットならではの機能など

Zendeskのチャットボットとは

① Zendeskについて



- 米国のソフトウェア会社
- チャットボットやFAQ、メッセージング等問い合わせを一元管理し、分析もカバーするプラットフォームを提供

Slide 10

Zendeskのチャットボットとは

② 主な特徴

01 国内他大学での導入事例なし (2021年9月時点)

- 無料トライアル (2週間) 制度
データは本番環境へ引継ぎ可能
- 手厚いフォロー体制
Zendeskとエレクト (日本のZendesk代理店) が事前相談会・デモ等を実施してくれ、契約後も構築までフォロー

Slide 11

Zendeskのチャットボットとは

② 主な特徴

02 構築・維持費が安価

	Suite Team	Suite Growth	Suite Professional	Suite Enterprise
Zendesk Suite	¥7,000/人	¥10,000/人	¥15,000/人	¥25,000/人
年間サブスクリプション (1ユーザーあたり)	¥80	¥120	¥180	¥300
年間サブスクリプション (1ユーザーあたり)	¥90	¥135	¥200	¥350

© 2022年7月現在
<https://www.zendesk.co.jp/pricing/#>

Slide 12

Zendeskのチャットボットとは

②主な特徴

【参考】名古屋大学図書館支出概算額（令和3年11月～令和4年10月）

品目	概算額
Zendesk Suite Enterpriseプラン (エージェント数：4) + アプリ使用料など	約800,000

Slide 13

Zendeskのチャットボットとは

②主な特徴

記事を公開すると、チャットボットで提案されるようになるとともに「FAQ「よくある質問」」にも表示される

Slide 14

Zendeskのチャットボットとは

②主な特徴

03 記事の編集作業が可能 (デフォルト)

- 記事の一括登録・ダウンロード
有料オプションのアプリで可能
- ライトエージェント機能
エージェント以外に記事の作成・閲覧・編集権限を付与可能
(公開はエージェントのみ可、Suite Enterprise契約では1000アカウントまで無料)

Slide 15

Zendeskのチャットボットとは

②主な特徴

04 考慮すべき点

- 辞書設定機能がなく、AIエンジン自体は変更不可
- 記事の検索機能 < 推測・提案機能
- あらかじめ設定した質問フローにそって記事を提案
- 日本語にまだ強くない
- 一度に提案できる記事は最大3件 (定型質問を組み合わせれば6件)

編集方針をたてて、AIが優先して推奨判断する点をふまえてフローを設計するとともに記事チューニングの必要あり

Slide 16

Zendeskのチャットボットとは

(参考) 主な編集方針

- 図書館・図書室のWebサイト等での情報提供を補助するものと位置づける
- メインターゲットを学内者とし、学外者に関する記事は必要最小限にする
- AIがチャットボットで回答する際に「タイトル」、「本文の導入部75文字」、「単独トピック」などを優先して推奨判断していることをふまえて編集する
- 各図書室等の電話番号、メールアドレスなどはFAQに登録せず、問合せページに案内する
- 図書館・図書室によって回答内容が異なるもの（貸出冊数等）は、原則、全体の案内記事と各図書館・図書室の記事を作成する
- チャットボット・FAQ一貫で解決しなかった場合に有人対応へつなげるため、レファレンスデスクや図書館オンライン相談等にもリンクさせる etc.

Slide 17

チャットボットで お手軽に質問できます！

設置済みの利用に関するよくある質問について
チャットボットが自動でお答えします！

所属図書館 Webサイト内のアイコンからご利用できます！

チャットボットとは、人工知能(AI)を活用し、お客様からの問い合わせに自動でお答えできるような、あらかじめ設定した編集方針に基づいて動作しています。

利用状況 (4/1-8/31)

チャットボットとFAQは、どの程度利用されているか？

利用状況

記事のタイトル

1660 質問への回答提案のべ記事数

357 定型選択肢のクリック

7230 FAQ記事のべ閲覧数

699 チャットボット利用のべ人数

504 FAQ記事数 (日本語)

45 (英語 7/21追加)

(45) (中国語 準備中)

Slide 20

利用状況：月別グラフ

月	チャットボット回答数	記事閲覧数
4月	287	2116
5月	127	598
6月	72	1316
7月	82	1534
8月	57	1666

- 4月13日カレントアウェアネスで紹介され、直後から利用が伸びた。
- 4月下旬には落ち着いた。
- 5月からFAQ記事の利用が伸びた。
- FAQ検索回数は88回。

Slide 21

利用状況：記事別閲覧数

記事のタイトル	閲覧数	記事
1. 学外生・卒業生も図書館・図書室を利用できますか？	1502	チャットボット定型質問・FAQの推奨記事
2. 【中央館】 研究組合の利用方法を知りたい	157	
3. このFAQやチャットボットの使い方が知りたい	149	チャットボット定型質問
4. プリントアウトしたいときはどうすればいいですか？	120	
5. 【中央館】 マイカースペースを利用したい	99	
6. 図説はありますか？	97	
7. パソコンを借りたい場所/部室はどこですか？	90	
8. 図書状況とは何ですか？	88	FAQの推奨記事
9. メモがいていいですか？	82	
10. コピーカードを借りたい	77	
11. 学外生ですが、Wi-Fiは利用できますか？	77	
12. 【中央館】 中央図書館は学外生・卒業生も利用できますか？	72	
13. 【国際関係】 図書室はどこですか？	68	
14. 車を借りたい (貸出)	68	FAQの推奨記事
15. 貴重書・絵巻物の閲覧方法を知りたい	66	
16. 【中央館】 飲み物の自動販売機 (自販機) はありますか？	62	
17. 本は何時まで借りられますか？	61	FAQの推奨記事
18. 図書館員に相談したい：利用相談・レファレンス	59	チャットボット定型質問・FAQの推奨記事
19. 【中央館】 Adobeやイラストレーターを借りたい場所はどこにありますか？	58	
20. 【中央館】 中央図書館の読書感想文・利用方法を知りたい	51	

Slide 22

記事のタイトル	閲覧数	記事
21. オンラインのチャットや検索で相談したい	51	チャットボット定型質問・FAQの推奨記事
22. 図書館でWi-Fiは使えますか？	49	
23. 研究室で車を借りたい場所を知りたい	46	FAQの推奨記事
24. 研究資料の閲覧方法を知りたい	46	FAQの推奨記事
25. 【中央館】 貸し出しの場所はどこですか？	45	
26. 電子書籍を借りたい場所/部室はどこですか？	45	
27. 【中央館】 コンセントを借りたい場所はどこですか？	43	
28. 名前のWi-Fiに接続できません	43	
29. メモがいていい場所はどこにありますか？	40	
30. 図書館の貸出期限は無料 (延長) できますか？	40	FAQの推奨記事
31. 【中央館】 図書館で忘れ物をしました	38	
32. 中央図書館を学外生から利用したい	37	
33. 3Dプリンターの電子書籍を借りたい場所を知りたい	35	
34. 【中央館】 電動自転車の使い方が知りたい	35	
35. キャンパス外から、各書庫までVPNサービス経由で図書館データベースを利用できますか？	35	
36. 図書館でコピーするときの注意事項はありますか？	35	
37. 貸し出しのシステムはありますか？	32	チャットボット定型質問・FAQの推奨記事
38. 中央図書館の学生です。中央図書館利用カードを持っていますが、中央図書館以外の図	32	FAQの推奨記事
39. 借りた資料を紛失してしまった場合はどうすればいいですか？	31	
40. 図書館の貸出期限延長 (更新) をしたために返却期限が思ったより延びました	30	

Slide 23

記事のタイトル	閲覧数	記事
41. 【中央館】 外分館のために資料の借込めを知りたい	28	
42. 【中央館】 読書感想文はありますか？	28	
43. 借りた本を返却したい	27	FAQの推奨記事
44. 自分宛てに借りているか確認したい	27	FAQの推奨記事
45. 絵巻・絵巻物の閲覧方法を知りたい	25	
46. 不用図書も処分するので返却してほしい	25	
47. 図書館の蔵書状況・利用方法を知りたい	25	FAQの推奨記事
48. Embaseは契約していますか？	24	
49. 命の部や研究資料の閲覧室を利用できますか？	24	FAQの推奨記事
50. 借出済みリストリーンの内容チェックをしてほしい	24	
51. 貴重書・絵巻物の閲覧方法を知りたい	23	
52. 科学研究費で図書を購入したが、どうすればいいですか？	23	
53. 電子ジャーナルを借りたい	23	FAQの推奨記事
54. 【中央館】 図書館の近所情報を知りたい	22	FAQの推奨記事
55. 【国際関係】 国際関係図書室は学外生・卒業生も利用できますか？	22	
56. 借りた本を返却の図書室に返却したい	22	
57. 論文を借りたい	22	FAQの推奨記事
58. 論文とは何ですか？ (文献取り寄せサービス)	21	FAQの推奨記事
59. 【中央館】 中央図書館で卒業論文・修士論文は利用できますか？	21	
60. 【情報】 情報・資料活用図書室で卒業論文・修士論文は利用できますか？	21	

Slide 24

運用について

これからもメンテナンスしていくために。

運用について

①運用体制

- 関係する職員から文案修正への協力を得る。
- 執務場所が分かれている職員が連携する。

↓

Teams上にチームを作成

- 連絡や相談をできるだけチーム内で完結
- マニュアルや記録もチーム内に保存
- チャットボット担当以外には、通常時の負担を掛けない。

チャットボット担当 (情報サービス課8名)

- 修正依頼への対応、日常の運用管理。
- Zendeskアカウントを持ち記事の修正をする。

文案作成の協力者 (図書館/室職員)

- 必要に応じて記事文案作成に関与、通常は負担なし。
- Zendeskアカウントを持たない。

関心をもつ人 (図書館/室職員)

- チームへの出入り自由

Slide 26

運用について

②記事の修正フロー

01

修正連絡 (Webフォーム)

Teamsで受領。
Microsoft Formsと Power Automateを使用。
・メッセージの投稿
・Excel表への追加

02

修正文案を作成

Teamsでコメントをつけていく。
関係者の了承が得られたら 文案完成。

03

記事を更新

チャットボット担当がZendeskにログインして記事を修正・公開。

04

修正履歴管理

Teams内のExcel表へ入力。
(文案作成者、修正内容など)

Slide 27

運用について

③動作確認・評価

統計抽出機能(Explore)

チャットボットの応答

- 利用者の質問とチャットボットの回答を見比べる。
- 質問の意図に合っているか？
- 回答も提案できているか？
- 記事が用意されているか？
- 「役に立ちましたか？」に対する「はい」「いいえ」の数
- 定型質問のクックブック状況

FAQ (よくある質問)

- アクセス数
- 検索キーワードとそれぞれの回答記事件数
- 参照された記事を多い順に参照 (記事タイトル)

Slide 28

その他

印象に残った点

その他

- 契約したらずく使える。自社用の設定をする。
- 常に最新版。Zendesk側で機能の追加や改変が行われ、新機能が追加されていく。
- 先行して導入している他社の要望を反映して開発されており、便利な機能が多い(当館で使っていない機能も多い)。
- 日本語の画面で操作できる。
- 多言語にも対応。

Slide 30

名古屋女子大学図書館における教員へのアプローチ事例

名古屋女子大学学術情報センター

北村 咲



教員へのアプローチについて

取り組みの目的

- 研究支援
- 学修支援

➡ 学生指導への活用
➡ 図書館と連携した学修支援に連結

professors
students Librarians

東海地区大学図書館協議会 研究集会
2022.10.27

7

教員向け講習会

- 例年4月に実施
- 新任教員 + 在任教員対象
- 検索講習を交えての講義
- オンラインサービスの説明

東海地区大学図書館協議会 研究集会
2022.10.27

8

教員向け講習会のあゆみ

2000年 雑誌記事データベース説明会 [トライアル製品説明]
 2001年 " [新規導入製品説明]
 2004年 " [EBSCO Academic Search Elite導入]
 2004年4月～ **教員向け説明会スタート** [EBSCOhost 利用説明]
 ……
LMS説明会&データベース説明会 として継続

東海地区大学図書館協議会 研究集会
2022.10.27

9

講習会のメニュー

LMS講習会

図書館Web
サイト案内

データベース講習
【EBSCO】

オンライン
サービス案内

書籍販売
サービス
紹介

東海地区大学図書館協議会 研究集会
2022.10.27

10

データベース講習

シソーラス検索 (CINAHL Headingの場合)

EBSCOhost

CINAHL Headingをダウンロード

検索したい言葉が、どのように入力されているかを調べます

EBSCOhost 検索フィールド

Googleメリット

- シンプル検索ボックス
- 検索条件を絞り込み
- あらゆるリソースの網羅的な検索

EDSメリット

- Googleと連携
- 特許及び特許されたリソースのフルテキスト
- 最新の情報による最新の高い検索
- ファイルの利便性
- 利用者の多様性
- アルゴリズムの差別性

東海地区大学図書館協議会 研究集会
2022.10.27

11

図書館のサービス案内

東海地区大学図書館協議会 研究集会
2022.10.27

12

スケジュール



3. 学修支援としてのアプローチ

利用教育の実施



学修支援への接続

年度	初年次教育	キャリア指導	卒業研究	その他授業連携	総件数	受講者総数
2021年度	33件	6件	15件	20件	74件	1,638名
2020年度	33件	9件	20件	19件	81件	1,580名
2019年度	21件	8件	28件	16件	73件	1,844名

その他の取り組み—学習支援としてのアプローチ

- シラバス参考図書
- 読書推進活動
読書Diary 推薦図書



読書推進活動について



- 短期大学の特色的活動としてスタート (H.24~)
- 全学展開へ
- 教職協働で「読書Diary」を制作
- 読書を促すサイクルを実施



まとめ

講師からのサポート
高度なレベルの
講習

図書館の実践
密な
アプローチ

教職協働
図書館への協力体制

2022.10.27 19

講習会のシフトチェンジ Before 2020



EBSCO講習会
2017年4月/11月 名古屋女子大学

EBSCO Information Services Japan株式会社

2022.10.27 20

講習会のシフトチェンジ After 2020




Access

OPEN ACCESS JOURNAL

ハゲタカを理解する

2022.10.27 21

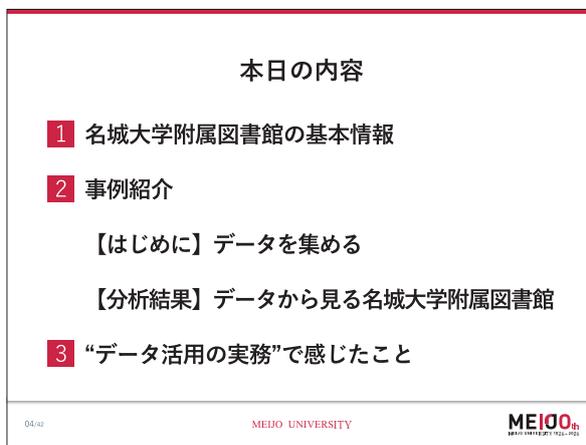
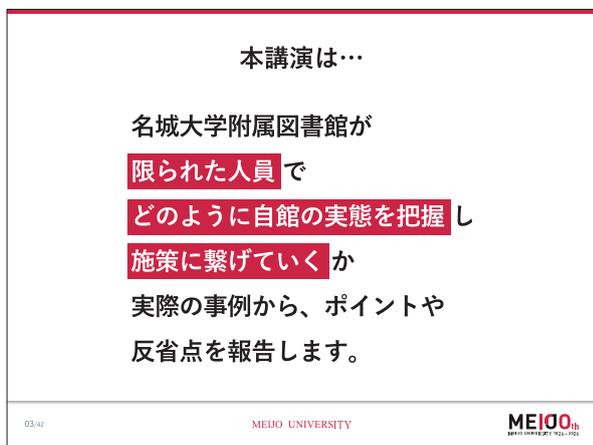
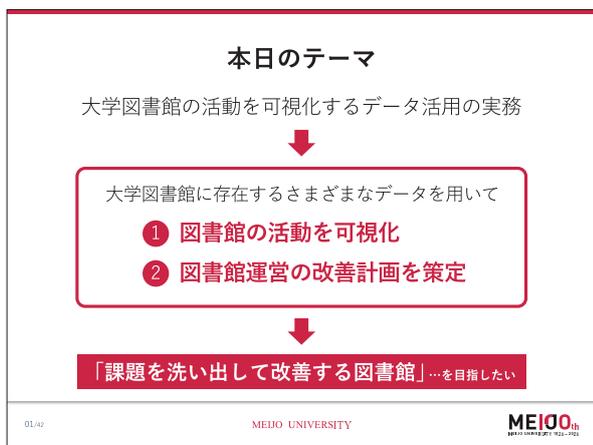
ご清聴ありがとうございました

2022.10.27

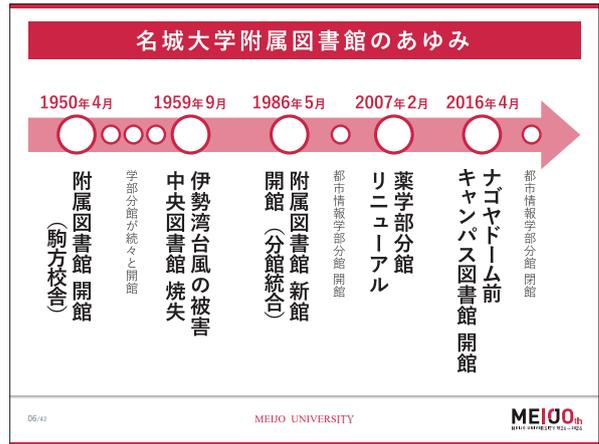
大学図書館の活動を可視化するデータ活用の実務

— 図書館利用統計・学術情報基盤実態調査・決算データ・利用者アンケートから —

名城大学附属図書館



1 名城大学附属図書館の基本情報



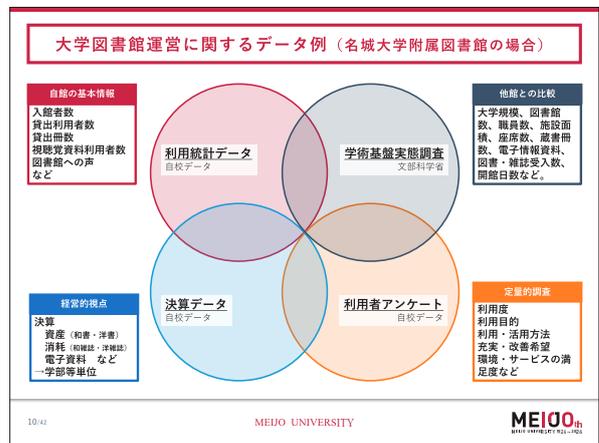
名城大学附属図書館の基本情報

	本館	薬分館	ドーム前
竣工	1986年3月	2007年2月	2016年4月
延面積 (㎡)	12,755	856	1,100
蔵書数 (図書:冊)	1,017,011	64,321	130,245
蔵書数 (雑誌:種類)	20,450	711	816
閲覧座席数	1,041	149	286
入館者数 (2021年度)	161,888	29,718	49,691
貸出冊数 (2021年度)	39,228	2,634	19,518

2 事例紹介

【はじめに】 データを集める

- ## 出発点：附属図書館の課題
- 狭隘化が深刻**
問題が先送りにされている
 - 運用がバラバラ**
学部分館体制の名残が残っている
 - 専任職員の現場感覚が薄い**
レファレンスも含め、ほぼ全面業務委託となった
 - 経営上は【コストセンター】**
執行部へのアプローチは適切か？
 - 古き良き図書館**
新しい時代に対応した機能などが付加できていない



データを集めるうえで意識した点

収集する公的機関のデータの選別

- 1 種類を増やしすぎないこと
- 2 継続的に収集できるデータであること

アンケート回収と潜在的利用者へのアピール

- 1 学生ホール、食堂など、学生が集まる場所で広報
- 2 心理的ハードルを下げる 回答目安時間の明示、QRコードなど回答までの導線キャラクターを用いたゆるい広報…
- 3 回答者へのノベルティの進呈 参加することによるメリットを提示

11/02

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
MIEI UNIVERSITY LIBRARY

2

事例紹介

【分析結果】データから見る 名城大学附属図書館

分析内容

- 1 図書館利用統計 (2021年度)
- 2 学術情報基盤実態調査
- 3 決算データ
- 4 附属図書館利用者アンケート
- 5 4つのデータからわかったこと

13/02

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
MIEI UNIVERSITY LIBRARY

1 図書館利用統計 (2021年度)

閲覧サービス

開館日数 **280日** (3館平均)
入館者数 **241,297人**
学生一人当たり利用回数 **16回**
学生一人当たり貸出冊数 **4冊**

相互利用

相互貸借 受付 **40件**
依頼 **72件**
文献複写 受付 **219件**
依頼 **297件**

参考調査

学生一人当たり利用件数 **0.4件**



課題の検証をする前の現在地の確認作業

14/02

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
MIEI UNIVERSITY LIBRARY

2 学術基盤実態調査

【調査項目】

1. 業務内容別内訳
2. 施設・設備
 - 2-1 面積、施設用途、2-2 閲覧席席数、2-3 書架収容力
 - 2-4 図書館利用者端末台数
3. 電算機
 4. 図書・雑誌受入数
 - 4-1 図書受入数、4-2 雑誌受入数
 5. サービス状況
 - 5-1 開館日数、5-2 館外貸出冊数
 - 5-3 参考業務 (レファレンス・サービス) 利用件数
 - 5-4 文献複写件数、5-5 その他の学習・研究サポート
 - 5-6 図書館間相互協力
 6. 経費
 - 6-1 図書館資料費の内訳、6-2 図書館・運営費の内訳
 7. 外部委託業務
 8. 図書館の公開
 9. 他機関との連携
 10. 電子図書館的機能
 11. 機関リポジトリ
 12. 課題
 - 12-1 組織・運営面、12-2 経費・設備面、12-3 機能面
 - 12-4 外国雑誌及び電子ジャーナル、12-5 機関リポジトリ

調査の目的

国公立大学の学術情報基盤 (大学図書館、コンピュータ及びネットワーク等) についての現状を明らかにし、その改善の基礎資料とすることを目指す。

調査開始年 昭和41年 (1966年)

調査の根拠法令

調査対象 国公立大学

抽出方法 全数調査 (全数調査)

国公立の設置形態や設置学部数による集計が行われているため似た属性の大学との比較が容易

以降のデータ出典: 学術情報基盤実態調査 (令和3年度 大学図書館編)

15/02

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
MIEI UNIVERSITY LIBRARY

2 学術基盤実態調査

私立大学A

8学部以上 46校
※本学を含む

私立大学B

5~7学部 87校

私立大学C

2~4学部 275校

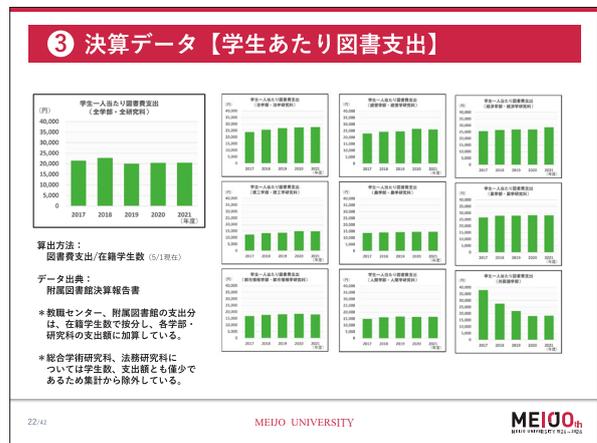
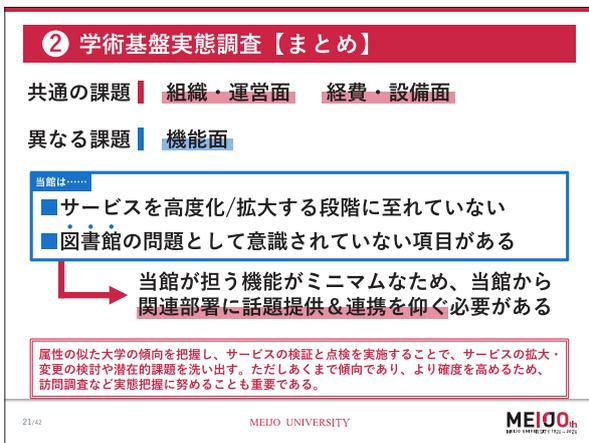
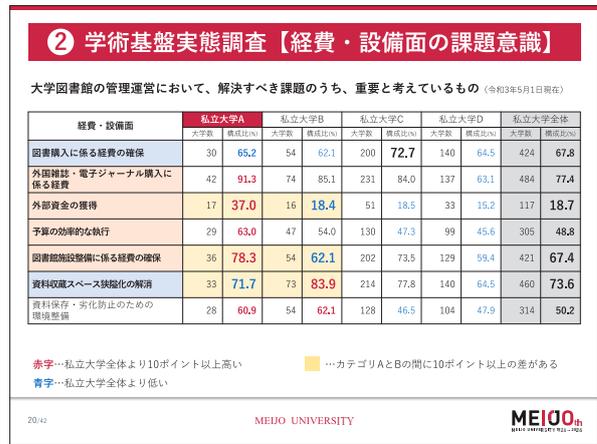
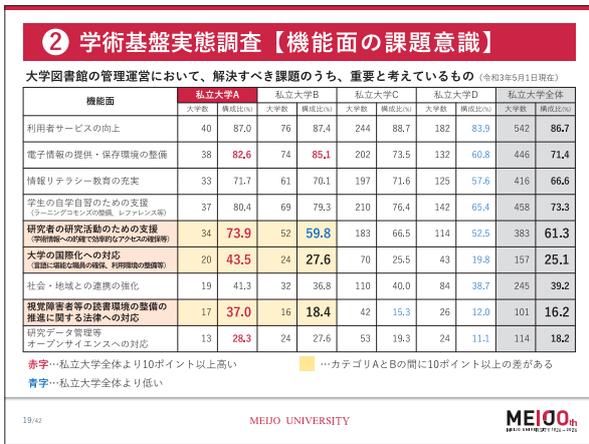
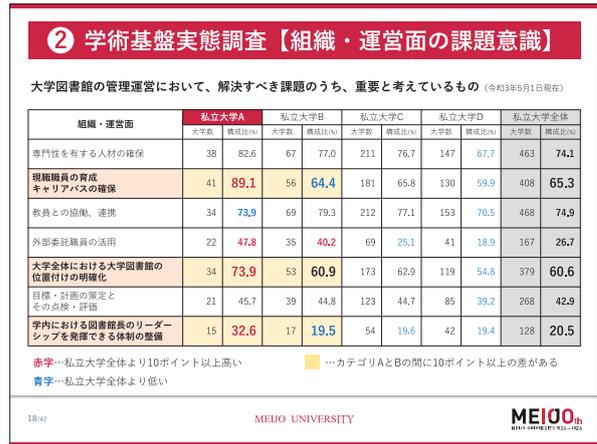
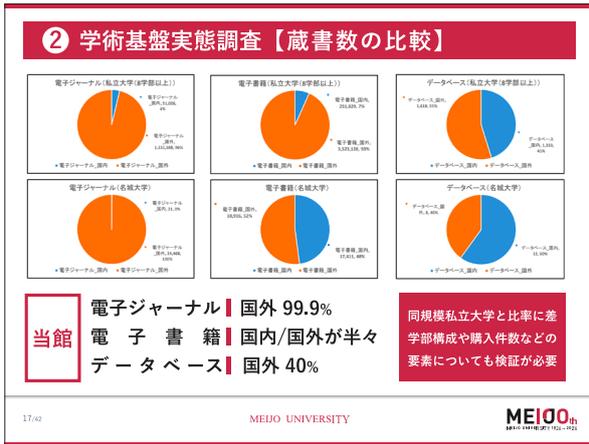
私立大学D

単科大学 217校

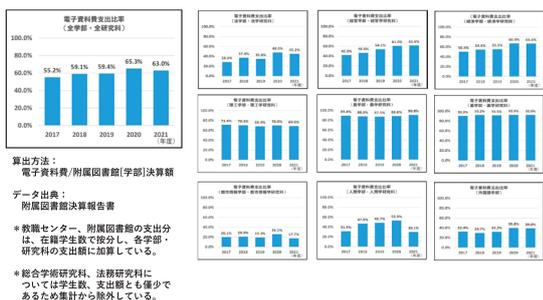
16/02

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
MIEI UNIVERSITY LIBRARY



③ 決算データ【電子資料費】

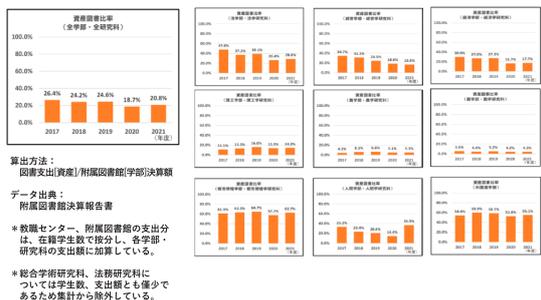


23/42

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
附属図書館

③ 決算データ【資産図書】



24/42

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
附属図書館

③ 決算データ【まとめ】

- 過去3年の学生一人当たりの図書支出＝約20,000円
- 学部ごとの学生一人当たりの図書支出は微増傾向
- 電子資料費支出が図書支出の60%を越える
- 理系学部の予算はその大半を電子資料の購入に使用
- 資産図書比率から見る蔵書数の増加傾向

- 現場が直感的に理解していることを、数値で裏付けできた
- 執行部に対し、図書館の状況をエビデンスと共に提供できる

25/42

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
附属図書館

④ 附属図書館利用者アンケート【概要】

- 調査目的** 設備・環境整備、サービスの改善・向上に役立てる
 - 調査対象** 学部生・大学院生・教育職員・事務職員
 - 調査方法** Webアンケート（無記名式）
 - 実施期間** 2022年5月27日～6月30日（35日間）
 - 有効回答数** 872件
 - 全体回答率** 5.4% (872/16,102*)
- *内訳＝学部生：14,684 大学院生：593 教育職員：529 事務職員：296

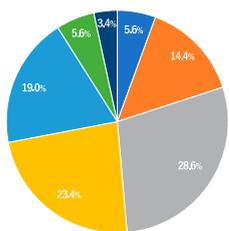
26/42

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
附属図書館

④ 附属図書館利用者アンケート【利用頻度】

あなたは図書館をどの程度利用していますか？
(いずれか1つ)



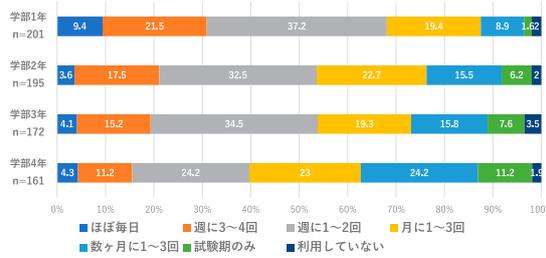
27/42

MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
附属図書館

④ 附属図書館利用者アンケート【利用頻度】

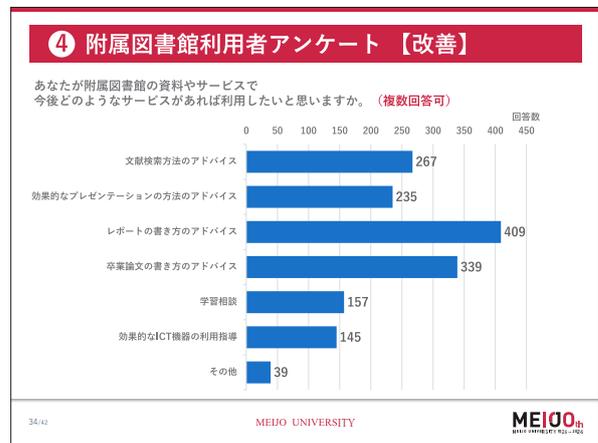
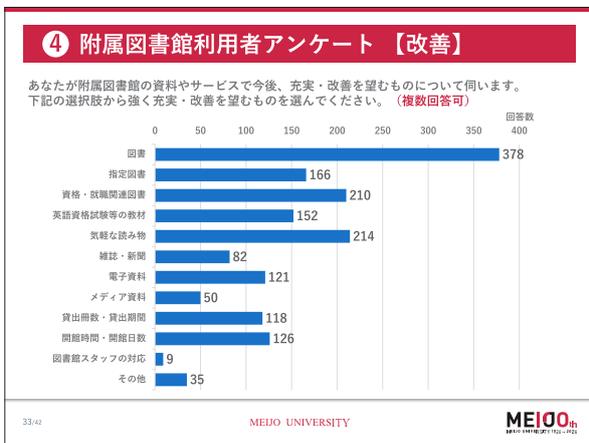
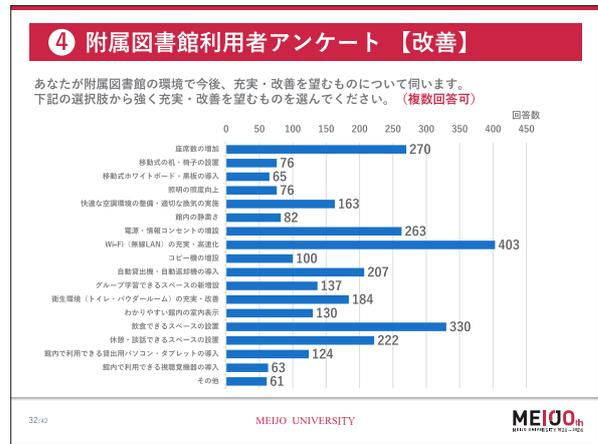
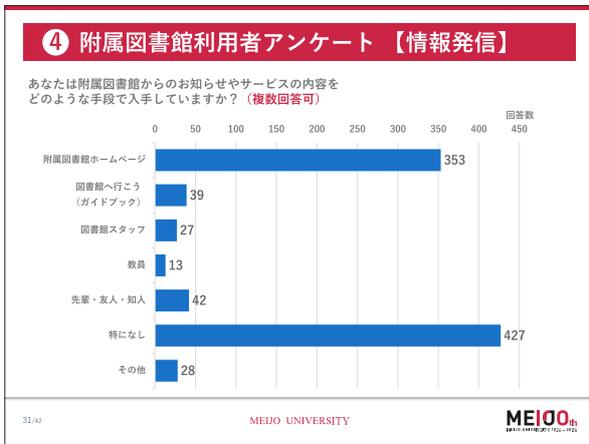
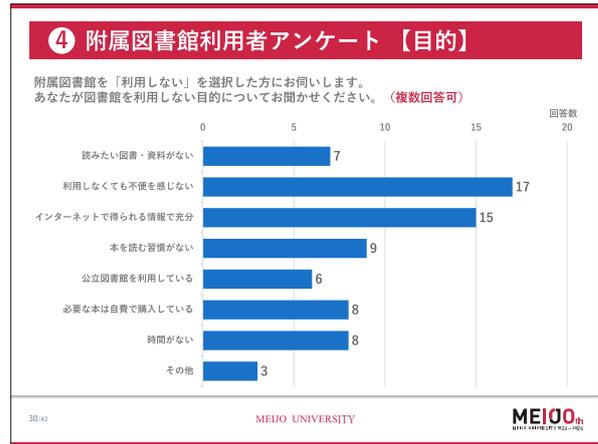
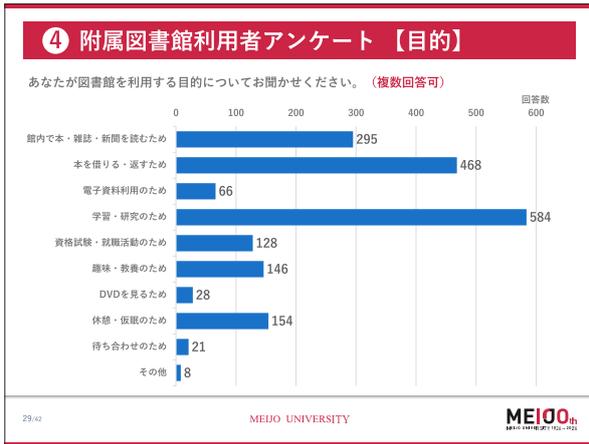
図書館の利用頻度（学年別）



28/42

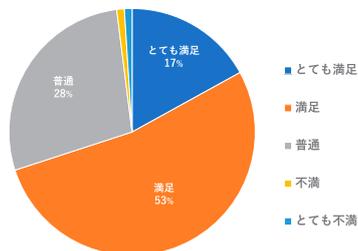
MEIO UNIVERSITY

MEIO_{lib}
附属図書館



4 附属図書館利用者アンケート【評価】

附属図書館におけるサービス全般の評価



35/42

MEIJO UNIVERSITY

MEIJOlib

4 附属図書館利用者アンケート【まとめ】

利用状況

- 今回の対象は毎週利用している意識がある
- 学年が進行すると利用頻度が下がる傾向
- 休憩や仮眠の場としての需要がある

図書館を利用しない理由

- 利用しなくても不便を感じない
- インターネットで充分
- 時間がない・本を読む習慣がない

情報発信

- ホームページを見ることがほとんどだが特に見ていない層が最多

改善要望

- Wi-Fi、電源コンセントの充実
- 飲食、談話できるスペースの設置
- 対面支援の充実

ある程度の傾向はつかめるもの…検証は必要

36/42

MEIJO UNIVERSITY

MEIJOlib

4 附属図書館利用者アンケート【反省点まとめ】

価値観を含んだ質問になっていないか？

例) 「強く」充実・改善を望む → 「強く」とはどの程度か? 「充実」とはどういう状態か?

回答者に伝わるか：専門(業界)用語を使っていないか？

例) 「機関リポジトリ」「データベース」「ICT」「記架」「OPAC」「指定図書」など

ダブルバーレル質問(2つ以上の項目を含む質問)をしていないか？

例) 電源・情報コンセントの増設 → 片方しか望まない場合はどう答えたら良いのか?

選択式であることのメリット・デメリット

例) 電子資料と紙資料、どちらが望ましいか? → 選択肢があると、関心が薄くても回答可能。聞き手の理解度は?

理由を直接聞く：強い理由がある行動とは限らない

「何かをしないこと」には、強い理由がないことが多い。

未回答者バイアス・自由回答の取り扱い

そもそも回答をくれる学生は好意的。回収率も低い中、それらを代表的意見として扱うのか、それとも個人の感想と取るか。

37/42

MEIJO UNIVERSITY

MEIJOlib

4 附属図書館利用者アンケート【反省点まとめ】

最大の反省点

「何のためにアンケートを実施するか?」がブレたこと
根拠作りなのか、課題を探ることなのか。



改善を要望している人数が知りたい

例) レポートの書き方のアドバイスには400件も要望がある → 施策の根拠になる

➤ こちらの想定外の要望までは引き出せなかったため、さらなる検証が必要



全体の傾向をつかむ

例) 年次が低いほど来館頻度が高い → 今回の調査だけでは言えない

➤ 長期的な調査など、統計処理可能な調査手法を選ぶ必要がある

参考にできる部分は活かしていく

38/42

MEIJO UNIVERSITY

MEIJOlib

5 4つのデータからわかったこと

わかったこと

- 自大学の基礎情報
- 同規模大学の状況(課題やサービス)など
- 決算データによる活動の数値化
- 利用者のニーズ(の大きさ)

わからないこと

- 利用者全体の傾向
- 未回答者の傾向
- 数値が示すものの実態
- 他館との満足度の比較

➤ データの見極めが大事。数値は仮説の素材とする。

➤ 意思決定のエビデンスにするなら
ヒアリングや観察など、仮説を丁寧に検証していく作業が必要。

39/42

MEIJO UNIVERSITY

MEIJOlib

5 4つのデータからわかったこと【対策の検討】



まず「原因」を丁寧に探ることが重要

40/42

MEIJO UNIVERSITY

MEIJOlib

3 “データ活用の実務”で感じたこと

3 データ活用の実務で感じたこと

調査の目的をしっかりと定める

- 課題を発見し、課題解決のヒントを得るために調査設計&データ収集
- 強く推進したい施策があるなら、エビデンスのために様々なアプローチを検討

切り取りや都合の良い解釈は厳禁

- 執行部が判断を誤る原因になってしまう
- 数値や結果に囚われず、原因の究明とPDCAを回すことが大切

アンケートは細心の注意を払う

- 結果の分析よりも、設計と回収に労力がかかる

42/42 MEIJO UNIVERSITY **MEIJO**
UNIVERSITY 1921



行 事

第77回

東海地区大学図書館協議会 総会・研究集会

【総会の部】

日 時：令和5年8月22日(火)～9月7日(木)
総会当番館：岐阜県立看護大学、岐阜薬科大学、
情報科学芸術大学院大学

メール会議により、下記のとおり開催した。

記

1. 開催方法について

(1) 開催方法は、メール会議とし、会員館全館
を出席館として扱う

(2) 協議事項の審議方法

当協議会会則第9条に則り審議する

第9条 総会の票決権は、一館一票とし議
決は出席館の過半数の賛成を要する

会員館は、総会期間中に、各協議事項につ
いての認否を、事務局の用意したフォームに
より投票する。総会終了後、事務局から会員
館へ議決を通知する。

I 協議事項

1. 令和4年度事業報告

別添の令和4年度事業報告(案)のとおり、
承認された。

2. 令和4年度決算報告・同監査報告

令和4年度の決算報告(案)について、同案
は、監事館の愛知県立芸術大学、日本福祉大学
により、適正に処理されていたことが確認され
ているとの説明があり、提案のとおり承認され
た。

3. 令和5年度事業計画(案)及び予算(案) について

令和5年度事業計画(案)および予算(案)
について、案のとおり承認された。

4. 第78回総会当番館、研修会会場館について

第78回総会・研究集会の当番館として椋山女
学園大学が承認され、研修会会場館として静岡
大学が選出された。

II 報告事項

1. 国公立の各大学図書館の活動状況、当面 の課題等について

国公立の各協議会の理事校・幹事校(名古
屋大学、愛知県立大学、椋山女学園大学)から
活動状況の報告があった。

III 永年勤続者表彰

令和5年度永年勤続者として、7名が表彰さ
れた。

永年勤続表彰者：村瀬和代(岐阜薬科大学)
鈴木尚子(愛知淑徳大学)
藤村和子(愛知淑徳大学)
藤枝保子(名古屋商科大学)
大塩和彦(名古屋大学)
辻 公子(名古屋大学)
長屋隆幸(名古屋大学)

以上

【研究集会の部】

日 時：令和5年10月11日(水)

13:00～16:30

会 場：オンライン(岐阜県立看護大学、岐阜
薬科大学、情報科学芸術大学院大学)

テーマ：「大学図書館とAI, ChatGPT」

◇講演：

「大学図書館と大規模言語モデル」

情報科学芸術大学院大学

教授 小林 茂

◇報告：

「ChatGPTを使ってIMRaD形式の原著論文が
書けるのかを試してみた件」

東邦大学医学メディアセンター

大橋病院図書室 橋本 郷史

◇交流会：

ブレイクアウトルームを使ったオンライン交
流会

令和4年度事業報告

令和4（2022）年	
8月22日	<p>第76回（2022年度）総会・研究集会（当番館：愛知工業大学）</p> <p>1. 総会（電子メールによる審議）</p> <p style="padding-left: 2em;">開催期間：8月22日（月）～31日（水）</p> <p style="padding-left: 2em;">総会出席者：全会員館84館</p> <p>1) 協議事項</p> <p style="padding-left: 2em;">2021年度事業報告</p> <p style="padding-left: 2em;">2021年度決算報告・同監査報告</p> <p style="padding-left: 2em;">2022～2023年度役員館について</p> <p style="padding-left: 2em;">東海地区大学図書館協議会誌の発行形態（案）について</p> <p style="padding-left: 2em;">会費の改定および改定にかかる会則の一部改正（案）について</p> <p style="padding-left: 2em;">協議会事業および総会にかかる申し合わせ（案）について</p> <p style="padding-left: 2em;">2022年度事業計画（案）及び予算（案）について</p> <p style="padding-left: 2em;">2023年度総会当番館、研修会会場館について</p> <p>2) 報告事項</p> <p style="padding-left: 2em;">国公私立の各大学図書館の活動状況，当面の課題等について（名古屋大学、愛知県立大学、愛知工業大学）</p> <p style="padding-left: 2em;">永年勤続者表彰（13名）</p>
10月27日	<p>2. 研究集会（オンライン開催）</p> <p style="padding-left: 2em;">開催日時：10月27日（木）13：30～16：40</p> <p style="padding-left: 2em;">参加者数：84名</p> <p style="padding-left: 2em;">テーマ「2020年代の大学図書館サービス～新たな利用者支援の可能性～」</p> <p style="padding-left: 2em;">講演「オープンアクセスの光と闇～ハゲタカジャーナルとプレプリント～」</p> <p style="padding-left: 4em;">花田謙一（EBSCO Information Services Japan 株式会社）</p> <p style="padding-left: 2em;">事例報告「チャットボット導入体験談 大学図書館における利用者相談の新しい形－いつでも、どこからでも－」</p> <p style="padding-left: 4em;">直江千寿子（名古屋大学附属図書館）</p> <p style="padding-left: 4em;">浅見沙矢香（名古屋大学附属図書館）</p> <p style="padding-left: 2em;">事例報告「名古屋女子大学図書館における教員へのアプローチ事例」</p> <p style="padding-left: 4em;">北村 咲（名古屋女子大学図書館）</p>
9月30日	<p>研修企画小委員会（第4-1回）（オンライン開催）</p> <p style="padding-left: 2em;">令和4年度の研修会の企画について</p>
11月25日	<p>研修企画小委員会（第4-2回）（電子メールによる審議）</p> <p style="padding-left: 2em;">2022年度東海地区大学図書館協議会研修会実施形態の変更について</p>

12月5日	運営委員会（第4-1回）（電子メールによる審議） 2022年度東海地区大学図書館協議会研修会実施形態の変更について
12月23日	「東海地区大学図書館協議会誌」第67号発行

令和5（2023）年	
2月1日	研修会（動画配信によるオンデマンド開催）（研修担当館：名城大学附属図書館） （申込者数 112名 視聴回数 234回） テーマ：大学図書館の活動を可視化するデータ活用 配信期間：令和5年2月1日（水）～2月28日（火）
3月6日	研修企画小委員会（第4-3回）（電子メールによる審議） 第9回図書館職員基礎研修の企画について
4月12日	研修企画小委員会（第4-4回）（電子メールによる審議） 第9回図書館職員基礎研修の講師等について
5月9日	研修企画小委員会（第4-5回）（電子メールによる審議） 第9回図書館職員基礎研修のカリキュラム修正案について
6月27日	運営委員会（第4-2回）（会場：名古屋大学附属図書館） 1）審議事項 令和4年度事業報告（案）について 令和4年度決算報告（案）について 令和5年度事業計画（案）及び予算（案）について 東海地区大学図書館協議会誌第68号の発行計画について（案） 永年勤続者表彰について 第77回総会・研究集会の開催について（案） 第9回図書館職員基礎研修の開催について（案） 令和5年度図書館職員基礎研修分担金の徴収について（案） 第78回総会当番館、研修会会場館について 2）報告事項 2022年度東海地区大学図書館協議会研修会開催について

令和4年度決算報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

科 目	予 算 額 a	決 算 額 b	過△不足額 b-a	備 考
収入の部	円	円	円	
1. 前年度繰越金	3,902,943	3,902,943	0	
2. 会 費	504,000	504,000	0	令和4年度分：@6,000×84館=504,000
3. 会誌売上	47,500	45,000	-2,500	67号分：@2,500×18部=45,000
4. 分担金	0	0	0	基礎研修開催年度に北陸4国立大学から徴収
5. 雑収入	250,000	225,000	-25,000	協議会誌広告掲載料（67号） 225,000 @30,000×1社=30,000 @25,000×1社=25,000 @20,000×4社=80,000 @10,000×9社=90,000
6. 預金利息	29	34	5	
計	4,704,472	4,676,977	-27,495	

*前年度繰越金を除く令和4年度の収入額 774,034円

科 目	予 算 額 c	決 算 額 d	過△不足額 c-d	備 考
支出の部	円	円	円	
1. 総会補助金	50,000	9,370	40,630	第76回総会（愛知工業大学）
2. 研究集会費	100,000	33,741	66,259	第76回研究集会（愛知工業大学） オンライン開催、講師謝金等
3. 研修会費	300,000	198,330	101,670	オンデマンド動画配信、講師謝金等
4. 会誌刊行費	300,000	322,080	-22,080	67号 160部
5. 役員会経費	0	0	0	オンライン開催、経費なし
6. 事務費	100,000	0	100,000	事務用品
7. 通信費	20,000	37,121	-17,121	会誌送付等郵便料金
8. 表彰記念費	100,000	51,723	48,277	永年勤続表彰者13名の表彰状、記念品 （ネーム印付きボールペン）等
9. 予備費	3,734,472	0	3,734,472	
10. 次年度繰越金	0	4,024,612	-4,024,612	
計	4,704,472	4,676,977	27,495	

*次年度繰越金を除く令和4年度の支出額 652,365円

令和5年3月31日締め
 預金残高 4,024,612 円
 現金残高 0 円
 資産総額 4,024,612 円

会計監査
 令和5年5月30日～6月5日

愛知県立芸術大学
 日本福祉大学

監査済み

令和5年度予算

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

科 目	前年度 決算額 a	本年度 予算額 b	前年度決算額 よりの増△減 b-a	備 考
収入の部	円	円	円	
1. 前年度繰越金	3,902,943	4,024,612	121,669	
2. 会 費	504,000	504,000	0	令和5年度分：@6,000×84館＝504,000
3. 会誌売上費	45,000	0	△ 45,000	第68号～無料電子版に移行
4. 分 担 金	0	4,800	4,800	基礎研修開催年度に限り北陸地区国立大学から徴収する
5. 雑 収 入	225,000	0	△ 225,000	広告を掲載しないため掲載料収入なし
6. 預 金 利 息	34	34	0	
計	4,676,977	4,533,446	△ 143,531	

*前年度繰越金を除く本年度の収入見込み額 508,834円

科 目	前年度 決算額 c	本年度 予算額 d	前年度決算額 よりの増△減 d-c	備 考
支出の部	円	円	円	
1. 総会補助金	9,370	50,000	40,630	第77回総会（岐阜県立看護大学、岐阜薬科大学、情報科学芸術大学院大学）
2. 研究集会費	33,741	200,000	166,259	講師謝金等
3. 研修会費	198,330	100,000	△ 98,330	基礎研修当番館経費（名古屋大学）、講師謝金等
4. 会誌刊行費	322,080	200,000	△ 122,080	68号 オンライン刊行
5. 役員会経費	0	0	0	オンライン開催
6. 事務費	0	50,000	50,000	事務用品等
7. 通信費	37,121	20,000	△ 17,121	郵便料金等
8. 表彰記念費	51,723	50,000	△ 1,723	永年勤続表彰者7名の記念品（ネーム印付ボールペン）等
9. 予 備 費	0	3,863,446	3,863,446	
10. 次年度繰越金	4,024,612	0	△ 4,024,612	
計	4,676,977	4,533,446	△ 143,531	

*予備費を除く本年度の支出見込み額 670,000円

南山大学ライネルス中央図書館

〒466-8673 愛知県名古屋市昭和区山里町18

<https://office.nanzan-u.ac.jp/library/>

南山大学の図書館は、1946年の外国語専門学校の図書室が前身です。1949年大学創立時には五軒家町に図書館が設置され、1964年に大学が現在の山里町に移転した際に現在の場所に建設されました。その後1980年に地下1階・2階の書庫部分が増築され、現在の地下2階、地上3階建の外観になり、2022年に大学創立75周年記念事業のひとつとして改修工事が進められ、2023年4月、リニューアルしました。

2023年3月末時点で、約76万冊の図書、約1万5千タイトルの雑誌、約2万9千点の視聴覚資料、電子媒体は電子ジャーナル約3万3千件・電子ブック約34万件・データベース約80件を所蔵する図書館になっています。本学は学外に書庫を契約しており、約27万冊の資料を学外書庫で保管して、取寄せして利用しています。

このたびのリニューアルにあたり、以下のとおり3つの前提がありました。

- 1) 名称を「南山大学図書館」から「南山大学ライネルス中央図書館」へ変更する



【ライネルス師コーナー】

南山学園創立者であるヨゼフ・ライネルス師の名を冠し、師の教育理念を継承する場として構想されました。この写真のように、入口正面には「ライネルス師」が出迎えてくれ、ライネルス師の言葉“Seid edel, treu und gut.”「高潔、誠実にして

善良なるべし。」が記されています。

これが、ライネルス師が常に強調していた教育理念であり、建学の精神であり、後に「人間の尊厳のために」という教育モットーとして生き続けることとなります。1階のエントランスラウンジに、ライネルス師の足跡を辿るコーナーを設け、南山学園の歴史と建学の精神に触れることができます。

2) レーモンド建築を維持する

1964年に大学が山里町に移転した際、チェコの建築家アントニン・レーモンド氏がキャンパスを設計し、その時に図書館も建築されました。レーモンド氏の建築は、コンクリート打ちっばなしのデザインが特徴となっています。今回のリニューアルは当時の建築でしかできないような「天井の菱目型の梁」をそのまま活かして見せるかたちで改修し、レーモンド建築を継承しました。

また、本学は2017年から2021年にかけて、レーモンド・リノベーション・プロジェクトとして、レーモンドの設計思想である「自然を基本として」を継承した改修と外構整備などのキャンパス整備をおこないましたが、それらの記録として1階エントランスラウンジにレーモンド氏コーナーを設け、モニターで映す動画やパネルの写真などで様々な歴史に触れることができます。

3) 開館しながら改修する

2021年5月に計画を始め、2022年2月に足場を組んで工事を開始し、2023年3月にプレオープン、4月にリニューアルオープンしました。夏期事務休業の2週間や入試明けの2週間程度を臨時休館にしたものの、ほぼ通常通り開館しました。そのため、フロアごとに工事を進め、その都度資料を移設して進めました。閲覧席のエリアに仮設書架

を設置して資料を移設しましたので、閲覧席の利用は制限しましたが、他の利用者サービスは学内者に対しては通常通りとし、全ての図書館資料へのアクセスを可能にしました。

3つのコンセプト

南山大学ライネルス中央図書館は、「であう」「つながる」「かわる」をコンセプトにしています。人と人、人と資料が「であい」「つながり」、そこから自らが「かわる」ことによって、人や社会にとってのイノベーションが実現される。そのような機会を提供する特別な場所として、このライネルス中央図書館はリニューアルしました。

これまでと変わった点は、主に次の3点です。

1) ゾーニング

用途に合わせてゾーニングし、新たな空間を創出して利用しやすくしました。そして、内装コンセプトはアースカラーを基調とし、キャンパスの木立の印影と呼応するデザインで、ストライプ調のカーペットとし、スクールカラーをアクセントカラーにしました。ゾーニングは、次のとおり、各フロアに目的を持たせました。



Public Zone	新たな発見と「であう」空間
Student Zone	人や資料と「であう」「つながる」空間
Silent Zone	知識を深め、自分と「であう」空間
Academic Zone	授業や教員、貴重な資料と「つながる」空間

2) キャンパスとのつながり

キャンパスとのつながりを意識した図書館とするため、窓ガラスを大型ガラスへ変更し、眺望を改善しました。

3) 前庭の改修

同窓会からの寄附により、前庭をアルムナイガーデンと名称をつけ芝生広場を整備しました。

そして、正面出入口のほかに新しくガラス扉を整備し、前庭から直接図書館へ出入りできるようにしました。



【新しいガラス扉出入口】

リニューアル後、学生をはじめ多くの利用者にとって新たな空間を中心に図書館が活用されています。

これからの展望としては、3つのコンセプト「であう」「つながる」「かわる」の実現に向けた活動をおこなっていきたくと考えています。



【1階展示エリア】

これらの活動を通して、図書館の利用や活用を促進し、

- ・南山学園の建学の精神への理解
- ・人・グループの活発な交流
- ・多様な学問分野への探求
- ・教育・研究のための資料の充実（収集、保存、提供、活用）
- ・教育・研究成果の積極的な公表（オープンアクセス推進）

が一層進むことを目指しています。

南山大学ライネルス中央図書館が、ひとりでも多くの学生のみなさん、教職員のみなさん、一般の方々にご利用され、「であい」「つながり」「かわる」場となることを心より願っています。

会 則 等

東海地区大学図書館協議会会則

(名 称)

第1条 本会は、東海地区大学図書館協議会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、東海地区大学図書館の発展を図ると共に、図書館員の教養と技術の向上及び相互の親睦をはかることを目的とする。

(会 員)

第3条 本会は、前条の目的に賛同する東海地区（静岡、愛知、岐阜、三重）の国立、公立、私立の大学図書館その他これに準ずる図書館を以て組織する。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達するために、次の事業を行う。

- 一 会員相互間の連絡提携
- 二 図書及び図書館に関する研究会、講習会、
展示会等の開催並びに後援
- 三 図書館運営に関する相談、指導
- 四 機関誌の発行
- 五 その他必要と認める事業

(会 長)

第5条 本会に会長を置く。
2. 総会において会長館を選出し、その会長館の図書館長が会長となる。
3. 会長の任期は、2年とする。但し、重任を妨げない。

(委員会)

第6条 本会に運営委員会及び機関誌編集委員会を置く。
2. 委員会に関する事項は、別に定める。

(総 会)

第7条 会長は、毎年一回総会を招集する。
2. 会場は、加盟館の輪番とする。

第8条 会長館は、協議事項（議題及び承合事項）をとりまとめ、審議運行の手続きを計る。

第9条 総会の票決権は、一館一票とし議決は出席館の過半数の賛成を要する。

(会 計)

第10条 本会の経費は、会費その他の収入をもつてあてる。
2. 会員の会費は、年額6,000円とする。

第11条 本会の会計事務を監査するため、監事を置く。

2. 総会において監事館を選出し、その監事館の図書館長が監事となる。
3. 監事の任期は2年とする。但し、重任を妨げない。

第12条 本会の予算は、毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受けたのち、次の総会において承認を得るものとする。

第13条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(事務局)

第14条 会長館に、本会の事務局を置く。
2. 事務局に、事務局長及び職員を置く。
2. 会長館の事務部長、又はこれに準ずる者が事務局長となる。

(加盟と脱退)

第15条 本会に加盟を希望するものは、会長に申請し、総会の承認を得なければならない。

2. 本会からの脱退を希望するものは、理由を付けて会長に申請しなければならない。脱退については総会に報告する。

(会則の変更)

第16条 この会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

(附 則)

本会則は、昭和25年5月1日から施行する。

(附 則)

この改正は、昭和50年7月23日より施行する。

(附 則)

この改正は、平成27年8月21日より施行する。

(附 則)

この改正は、令和元年8月20日より施行する。

(附 則)

この改正は、令和4年8月31日より施行する。

東海地区大学図書館協議会

運営委員会規程

第1条 運営委員会は、本会の運営に関する事項を審議する。

第2条 運営委員会の構成は、国立大3、公立大3、私立大4、(短大1を含む)とする。

第3条 運営委員は、総会において選出する。

2 運営委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 前項の任期が満了しても、後任者が就任するまでは、なお、その任にあるものとする。

第4条 運営委員会に、委員長をおく。

2 運営委員長は、会長がこれに当たる。

3 運営委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

第5条 運営委員会に、必要に応じて小委員会を置くことができる。

第6条 運営委員会の事務は、事務局内において行う。

附 則

この改正は平成12年7月19日から施行する。

な事項を審議するため、運営委員会の下に研修企画小委員会(以下「小委員会」という。)を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

(審議事項)

第2 小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一 協議会が行う研修の企画に関すること

二 その他研修に関し、必要な事項

(小委員会の構成)

第3 小委員会は、次に掲げる委員館をもって構成する。

一 協議会会長館

二 国立、公立、私立の運営委員館から各1館

三 研修会会場館

2 小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

(小委員会の庶務)

第4 小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

附 則

この内規は、平成12年10月6日から施行する。

東海地区大学図書館協議会

ホームページ小委員会内規

平成12年10月6日

運営委員会

(目的)

第1 この内規は、東海地区大学図書館協議会(以下「協議会」という。)のホームページ(以下「ホームページ」という。)に関し、必要な事項を審議するため、運営委員会の下にホームページ小委員会(以下「小委員会」という。)を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

(審議事項等)

第2 小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一 ホームページの運用・管理に関すること。

二 ホームページの企画・編集に関すること。

三 その他ホームページに関し、必要な事項。

(小委員会の構成)

第3 小委員会は次に掲げる委員館をもって構成する。

東海地区大学図書館協議会

機関誌編集委員会規程

1 機関誌の発行について、編集委員会を設ける。

2 編集委員は、会長の指名による。

3 編集委員会に、委員長を置く。

4 編集委員長は、会長がこれにあたる。

5 編集委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

6 編集委員会の事務は、事務局内において行う。

東海地区大学図書館協議会

研修企画小委員会内規

平成12年10月6日

運営委員会

(目的)

第1 この内規は、東海地区大学図書館協議会(以下「協議会」という。)の研修に関し、必要

- 一 協議会会長館
- 二 国立、公立、私立の運営委員館から各1館
- 2 小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

(小委員会の庶務)

第4 小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

附 則

この内規は、平成12年10月6日から施行する。

東海地区大学図書館協議会ホームページ による情報発信に関わる申し合わせ

平成12年10月6日

運営委員会

1 情報発信の範囲

ホームページを通じて発信する情報は、次の各号に該当するものとする。

- ①協議会事業に関する情報
- ②協議会加盟館に関する情報
- ③その他ホームページ小委員会（以下「小委員会」という。）が必要と認めた情報

2 情報発信できる者の範囲

ホームページを通じて情報発信できる者は協議会加盟館とする。

3 情報発信の手続き

- ①ホームページを通じて情報発信しようとする者は、協議会事務局宛にHTML形式の文書をメールで送付するものとする。
- ②加盟館から送付された文書の内容は原則として変更しない。
- ③ホームページに掲載する文書の登録及び削除の決定は、小委員会が行う。但し、疑義があるときは、小委員会は運営委員会委員長と協議する。
- ④ホームページを通じて情報公開している者で、公開する情報の変更又は停止等の事由が生じた時は、速やかに協議会事務局に連絡する。
- ⑤小委員会は公開されたホームページの情報が不適当と判断した場合は、そのファイルを削除し、リンクを切断することができるものと

する。

4 ホームページ

当分の間、ホームページは名古屋大学附属図書館内のサーバーに置く。

表彰規程

第1条 東海地区大学図書館協議会会則第4条第5号に基づき加盟館の職員に対して行う表彰はこの規程の定めるところによる。

第2条 毎年総会の前日までに通算20年図書館に在職する者。

第3条 この規程による表彰は加盟館長の推薦により総会において行う。

第4条 表彰者には記念品及び感謝状を贈呈する。

第5条 この規程の改正は総会の議決によって行う。

附 則

この規程は、昭和44年10月29日から実施する。

表彰者推薦に関する申し合わせ

(昭和53年9月4日)

(改正 令和元年8月20日)

東海地区大学図書館協議会の加盟館に在職する者のうち、つぎの各項のいずれかに該当する者を推薦することとする。

(1) 毎年総会の前日までに通算20年以上加盟館に在職する者。

(2) 毎年総会の前日までに通算25年以上図書館に在職し、かつ3年以上加盟館に在職する者。

なお、(1)、(2)のいずれについても事務補佐員としての在職期間も加算するものとする。

「図書館職員基礎研修」実施に関する 分担金についての申し合わせ

(平成27年8月21日)

「図書館職員基礎研修」(以下、「基礎研修」という。)については、平成25年度東海地区大学図書館協議会総会において、東海北陸地区国立大学図書

館協会と共催することを決定した。これに伴う分担金の取り扱いについて以下のとおり定める。

1. 東海北陸地区国立大学図書館協会加盟館のうち、北陸地区に所在する4大学（以下、「北陸地区4国立大学」という。）から、基礎研修実施年度に限り、分担金を徴収することとする。
2. 分担金の金額は、前回の基礎研修開催に要した経費を、東海地区大学図書館協議会加盟館及び北陸地区4国立大学の合計数で除した値を基礎にして、その都度東海地区大学図書館協議会運営委員会で定める。

協議会事業および総会にかかる申し合わせ

（令和4年8月31日）

会則第4条二に定める事業および会則第7条に定める総会の開催について、以下のとおりとする。

1. 当番館は、単独館もしくは複数館で担当できるものとする。
2. 当番館は、会長館と相談のうえ、開催方法に対面、書面または電磁的方法等から選択できるものとする。

総会当番館一覧

東海地区大学図書館協議会 総会当番館一覧

回	年月	館名	県別	回	年月	館名	県別
1	昭25. 6	名古屋大学	愛知	40	61. 6	中京大学	〃
2	26. 6	金城学院大学	〃	41	62. 6	愛知県立大学	〃
3	26.11	三重大学	三重	42	63. 6	愛知学院大学	〃
4	27. 5	愛知学芸大学	愛知	43	平成元. 6	愛知教育大学	〃
5	27.10	名古屋工業大学	〃	44	2. 6	愛知大学	〃
6	28. 5	三重県立大学	三重	45	3. 7	静岡県立大学	静岡
7	28. 8	名古屋市立大学	愛知	46	4. 6	中部大学	愛知
8	29.10	静岡大学	静岡	47	5. 6	岐阜大学	岐阜
9	30. 9	岐阜大学	岐阜	48	6. 7	名古屋学院大学	愛知
10	31. 5	愛知大学	愛知	49	7. 6	岐阜薬科大学	岐阜
11	32.10	日本大学（三島）	静岡	50	8. 7	愛知大学	愛知
12	33. 6	名城大学	愛知	51	9. 7	浜松医科大学	静岡
13	34. 9	岐阜薬科大学	岐阜	52	10. 7	日本福祉大学	愛知
14	35.11	名古屋大学	愛知	53	11. 7	愛知県立看護大学	〃
15	36.11	南山大学	〃	54	12. 7	愛知工業大学	〃
16	37. 6	岐阜県立医科大学	岐阜	55	13. 7	三重大学	三重
17	38. 6	名古屋工業大学	愛知	56	14. 7	金城学院大学	愛知
18	39.10	愛知県立大学	〃	57	15. 6	岐阜県立看護大学	岐阜
19	40.10	日本福祉大学	〃	58	16. 7	南山大学	愛知
20	41.10	中京大学	〃	59	17. 7	名古屋工業大学	〃
21	42.11	岐阜薬科大学	岐阜	60	18. 7	名城大学	〃
22	43.11	愛知学院大学	愛知	61	19. 8	愛知県立芸術大学	〃
23	44.10	三重大学	三重	62	20. 8	愛知淑徳大学	〃
24	45. 9	同朋大学	愛知	63	21. 8	名古屋大学	〃
25	46.10	名古屋市立大学	〃	64	22. 8	名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学	〃
26	47.10	中部工業大学	〃	65	23. 8	名古屋市立大学	〃
27	48.10	愛知教育大学	〃	66	24. 8	中京大学	〃
28	49.10	大同工業大学	〃	67	25. 8	静岡大学	静岡
29	50. 7	愛知県立芸術大学	〃	68	26. 8	中部大学	愛知
30	51. 6	市邨学園女子短期大学	〃	69	27. 8	愛知県立大学	〃
31	52. 6	静岡大学	静岡	70	28. 8	名古屋学院大学	〃
32	53. 9	愛知工業大学	愛知	71	29. 8	豊橋技術科学大学	〃
33	54. 9	静岡女子大学	静岡	72	30. 8	愛知大学	〃
34	55. 9	名古屋学院大学	愛知	73	令和元. 8	静岡文化芸術大学	静岡
35	56.10	浜松医科大学	静岡	74	2. 8	日本福祉大学	愛知
36	57. 9	名古屋女子大学	愛知	75	3. 8	愛知教育大学	〃
37	58.10	静岡薬科大学	静岡	76	4. 8	愛知工業大学	〃
38	59. 9	南山大学	愛知	77	5. 8	岐阜県立看護大学 情報科学芸術大学院大学 岐阜薬科大学	岐阜
39	60.10	豊橋技術科学大学	愛知	78	6. 8	相山女学園大学（予定）	愛知

国立→私立→公立→私立の順による

加盟館一覧

東海地区大学図書館協議会加盟館一覧

令和5年12月1日現在

図書館名	法人名	郵便番号	住所	電話	Fax
(84)					
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 岐阜県 <input checked="" type="checkbox"/> (14)					
朝日大学図書館	学校法人 朝日大学	〒501-0296	瑞穂市穂積1851-1	(058)329-1051	(058)329-0021
岐阜大学図書館	国立大学法人 東海国立大学機構	〒501-1193	岐阜市柳戸1-1	(058)293-2184	(058)293-2194
岐阜医療科学大学 図書館	学校法人 神野学園	〒501-3892	関門市平賀字長峰795-1	(0575)22-9401	(0575)46-9570
岐阜協立大学図書館	学校法人 大垣総合学園	〒503-8550	大垣市北方町5-50	(0584)77-3527	(0584)77-3528
岐阜県立看護大学 図書館	公立大学法人 岐阜県立看護大学	〒501-6295	羽島市江吉良町3047-1	(058)397-2304	(058)397-2304
岐阜市立女子短期大学 附属図書館		〒501-0192	岐阜市一日市場北町7-1	(058)296-3123	(058)296-3130
岐阜聖徳学園大学 図書館	学校法人 聖徳学園	〒501-6194	岐阜市柳津町高桑西1-1	(058)279-6416	(058)279-1242
岐阜女子大学図書館	学校法人 華陽学園	〒501-2592	岐阜市太郎丸80	(058)214-9317	(058)229-2222
岐阜保健大学図書館	学校法人 豊田学園	〒500-8281	岐阜市東鶉2-92	(058)274-5001	(058)274-5260
岐阜薬科大学 附属図書館		〒502-8585	岐阜市三田洞東5丁目6-1	(058)237-3931	(058)237-3631
情報科学芸術大学院 大学附属図書館		〒503-0006	大垣市加賀野4-1-7	(0584)75-6803	(0584)75-6803
中京学院大学 メディアセンター	学校法人 中京学院	〒509-6192	瑞浪市土岐町2216	(0572)68-4584	(0572)68-4568
中部学院大学 附属図書館	学校法人 岐阜済美学院	〒501-3993	関市桐ヶ丘二丁目1番地	(0575)24-2243	(0575)24-2434
東海学院大学・東海学院 大学短期大学部附属 図書館	学校法人 神谷学園	〒504-8511	各務原市那加桐野町5-68	(058)389-2969	(058)371-9851
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 静岡県 <input checked="" type="checkbox"/> (13)					
静岡大学附属図書館	国立大学法人	〒422-8529	静岡市駿河区大谷836	(054)238-4474	(054)238-5408
静岡県立大学附属図書館	静岡県公立大学法人	〒422-8526	静岡市駿河区谷田52-1	(054)264-5801	(054)264-5899
静岡県立大学短期大学部 附属図書館・静岡県立大学 附属図書館小鹿図書館	静岡県公立大学法人	〒422-8021	静岡市駿河区小鹿2-2-1	(054)202-2617	(054)202-2620
静岡県立農林環境専門 職大学図書館		〒438-8577	静岡県磐田市富丘678-1	(0538)31-7923	(0538)31-7999
静岡産業大学図書館	学校法人 新静岡学園	〒438-0043	磐田市大原1572-1	(0538)36-8844	(0538)36-3580
静岡社会健康医学大学 院大学附属図書館	公立大学法人 静岡社会健康医学大学院大学	〒420-0881	静岡市葵区北安東4-27-2	(054)295-5401	(054)248-3520
静岡文化芸術大学 図書館・情報センター	公立大学法人 静岡文化芸術大学	〒430-8533	浜松市中区中央二丁目1番1号	(053)457-6124	(053)457-6125
静岡理工科大学 附属図書館	学校法人 静岡理工科大学	〒437-8555	袋井市豊沢2200-2	(0538)45-0231	(0538)45-0230

図書館名	法人名	郵便番号	住所	電話	FAX
聖隷クリストファー大学 図書館	学校法人 聖隷学園	〒433-8558	浜松市北区三方原町3453	(053)439-1416	(053)414-1146
東海大学付属図書館 清水図書館	学校法人 東海大学	〒424-8610	静岡市清水区折戸3-20-1	(054)334-0414	(054)334-0862
常葉大学附属図書館	学校法人 常葉大学	〒422-8581	静岡市駿河区弥生町6-1	(054)297-6136	(054)297-6137
日本大学図書館国際関 係学部分館	学校法人 日本大学	〒411-8555	三島市文教町2丁目31-145	(055)980-0806	(055)988-7875
浜松医科大学 附属図書館	国立大学法人	〒431-3192	浜松市東区半田山一丁目20-1	(053)435-2169	(053)435-5140

□■ 愛知県 ■□ (51)

愛知大学図書館	学校法人 愛知大学	〒453-8777	名古屋市中村区平池町4丁目60番6	(052)564-6115	(052)564-6215
愛知医科大学 総合学術情報センター	学校法人 愛知医科大学	〒480-1195	長久手市岩作雁又1-1	(0561)62-3311 (代表)	(0561)62-3348
愛知学院大学 図書館情報センター	学校法人 愛知学院	〒470-0195	日進市岩崎町阿良池12	(0561)73-1111 (代表)	(0561)73-7810
愛知学泉大学図書館	学校法人 安城学園	〒444-8520	岡崎市触越町上川成28	(0564)34-1209	(0564)34-1270
愛知教育大学 附属図書館	国立大学法人	〒448-8542	刈谷市井ヶ谷町広沢1	(0566)26-2683	(0566)26-2680
愛知県立大学学術研究 情報センター図書館	愛知県公立大学法人	〒480-1198	長久手市茨ヶ廻間1522-3	(0561)76-8841	(0561)64-1104
愛知県立芸術大学芸術 情報センター図書館	愛知県公立大学法人	〒480-1194	長久手市岩作三ヶ峯1-114	(0561)76-2963	(0561)62-0244
愛知工科大学 附属図書館	学校法人 電波学園	〒443-0047	蒲郡市西迫町馬乗50-2	(0533)68-1135	(0533)68-0352
愛知工業大学 附属図書館	学校法人 名古屋電気学園	〒470-0392	豊田市八草町八千草1247	(0565)48-8121	(0565)48-2908
愛知産業大学・ 短期大学図書館	学校法人 愛知産業大学	〒444-0005	岡崎市岡町字原山12-5	(0564)48-4591	(0564)48-5113
愛知淑徳大学図書館	学校法人 愛知淑徳学園	〒480-1197	長久手市片平2-9	(0561)62-4111 (代表)	(0561)64-0310
愛知東邦大学 学術情報センター	学校法人 東邦学園	〒465-8515	名古屋市長東区平和が丘3-11	(052)782-1243	(052)782-1097
愛知文教大学 附属図書館	学校法人 足立学園	〒485-8565	小牧市大草5969-3	(0568)78-2211	(0568)78-2240
桜花学園大学図書館	学校法人 桜花学園	〒470-1193	豊明市栄町武侍48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
岡崎女子大学・ 岡崎女子短期大学図書館	学校法人 清光学園	〒444-0015	岡崎市中町1-8-4	(0564)28-3318	(0564)28-3323
金城学院大学図書館	学校法人 金城学院	〒463-8521	名古屋市守山区大森2-1723	(052)798-0180	(052)768-1066
至学館大学附属図書館	学校法人 至学館	〒474-8651	大府市横根町名高山55	(0562)46-1239	(0562)46-3860
自然科学研究機構 岡崎情報図書館	大学共同利用機関法人	〒444-8585	岡崎市明大寺町西郷中38	(0564)55-7191	(0564)55-7199
修文大学附属図書館	学校法人 修文学院	〒491-0938	一宮市日光町6番地	(0586)45-2101	(0586)45-4410
椋山女学園大学図書館	学校法人 椋山女学園	〒464-8662	名古屋市千種区星が丘元町17-3	(052)781-6452	(052)781-3094
星城大学図書館	学校法人 名古屋石田学園	〒476-8588	東海市富貴ノ台2-172	(052)601-6000 (代表)	(052)601-6137
瀬木学園図書館	学校法人 瀬木学園	〒467-0867	名古屋市瑞穂区春敲町2-13	(052)882-3152	(052)882-3170

図書館名	法人名	郵便番号	住所	電話	FAX
大同大学図書館	学校法人 大同学園	〒457-8530	名古屋市南区滝春町10-3	(052)612-6873	(052)612-6108
中京大学図書館	学校法人 梅村学園	〒466-8666	名古屋市昭和区八事本町101-2	(052)835-7157	(052)835-1249
中部大学附属三浦記念 図書館	学校法人 中部大学	〒487-8501	春日井市松本町1200	(0568)51-4317	(0568)52-1510
同朋大学・名古屋音楽 大学図書館	学校法人 同朋学園	〒453-8540	名古屋市中村区稲葉地町7-1	(052)411-1951	(052)411-1120
東海学園大学図書館	学校法人 東海学園	〒468-8514	名古屋市天白区中平2丁目901	(052)801-1528	(052)804-1192
豊田工業大学 総合情報センター	学校法人 トヨタ学園	〒468-8511	名古屋市天白区久方2-12-1	(052)809-1743	(052)809-1744
豊田工業高等専門学校 図書館	独立行政法人 国立高等専門学校機構	〒471-8525	豊田市栄生町2-1	(0565)36-5904	(0565)36-5920
豊橋技術科学大学 附属図書館	国立大学法人	〒441-8580	豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1	(0532)44-6564	(0532)44-6566
豊橋創造大学 附属図書館	学校法人 藤ノ花学園	〒440-8511	豊橋市牛川町松下20-1	(050)2017-2105	(050)2017-2115
名古屋大学附属図書館	国立大学法人 東海国立大学機構	〒464-8601	名古屋市千種区不老町	(052)789-3666	(052)789-3693
名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学図書館	学校法人 中西学園	〒470-0188	日進市岩崎町竹ノ山57	(0561)75-1726	(0561)75-1727
名古屋学院大学 学術情報センター	学校法人 名古屋学院大学	〒456-8612	名古屋市熱田区熱田西町1-25	(052)678-4091 (事務所)	(052)682-6826
名古屋経済大学図書館	学校法人 市邨学園	〒484-0000	犬山市字樋池61-22	(0568)67-3798	(0568)67-9321
名古屋芸術大学 附属図書館	学校法人 名古屋自由学院	〒481-8503	北名古屋市熊之庄古井281	(0568)26-3121	(0568)24-0393
名古屋工業大学図書館	国立大学法人	〒466-8555	名古屋市昭和区御器所町	(052)735-5098	(052)735-5102
名古屋産業大学・名古屋 経営短期大学図書館	学校法人 菊武学園	〒488-8711	尾張旭市新居町山の田3255-5	(0561)55-3081	(0561)55-5985
名古屋商科大学 中央情報センター	学校法人 栗本学園	〒470-0193	日進市米野木町三ヶ峯4-4	(0561)73-2111 (代表)	(0561)73-1202
名古屋女子大学 学術情報センター	学校法人 越原学園	〒467-8610	名古屋市瑞穂区汐路町3-40	(052)852-9768	(052)852-1830
名古屋市立大学 総合情報センター	公立大学法人 名古屋市立大学	〒467-8501	名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	(052)872-5795	(052)872-5781
名古屋造形大学図書館	学校法人 同朋学園	〒462-8545	名古屋市北区名城2丁目4番1	(052)908-1656	
名古屋短期大学図書館	学校法人 桜花学園	〒470-1193	豊明市栄町武侍48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
名古屋文理大学 図書情報センター	学校法人 滝川学園	〒492-8520	稲沢市稲沢町前田365	(0587)23-2400 (代表)	(0587)21-2844
名古屋柳城女子大学・ 名古屋柳城短期大学図書館	学校法人 柳城学院	〒466-0034	名古屋市昭和区明月町2-54	(052)841-2635	(052)841-2697
南山大学ライネルス 中央図書館	学校法人 南山学園	〒466-8673	名古屋市昭和区山里町18	(052)832-3163	(052)832-3462
日本赤十字豊田看護大学 学術情報センター・図書館	学校法人 日本赤十字学園	〒471-8565	豊田市白山町七曲12-33	(0565)36-5119	(0565)37-7897
日本福祉大学 付属図書館	学校法人 日本福祉大学	〒470-3295	知多郡美浜町大字奥田字会下前35番6	(0569)87-2325	(0569)87-2795
人間環境大学 附属図書館	学校法人 河原学園	〒444-3505	岡崎市本宿町字上三本松6-2	(0564)48-7815	(0564)48-7815
藤田医科大学図書館	学校法人 藤田学園	〒470-1192	豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98	(0562)93-2420	(0562)93-2649

図書館名	法人名	郵便番号	住所	電話	FAX
名城大学附属図書館	学校法人 名城大学	〒468-8502	名古屋市天白区塩釜口1-501	(052)832-1151 (代表)	(052)833-6046

□■ 三重県 ■□ (6)

皇學館大学附属図書館	学校法人 皇學館	〒516-8555	伊勢市神田久志本町1704	(0596)22-6322	(0596)22-6329
鈴鹿医療科学大学 附属図書館	学校法人 鈴鹿医療科学大学	〒510-0293	鈴鹿市岸岡町1001-1	(059)340-0337	(059)383-9915
鈴鹿大学・鈴鹿大学 短期大学部附属図書館	学校法人 享栄学園	〒510-0298	鈴鹿市郡山町663-222	(059)372-3950	(059)372-2827
三重大学情報教育・研究機構 情報ライブラリーセンター	国立大学法人	〒514-8507	津市栗真町屋町1577	(059)231-9083	(059)231-9086
三重県立看護大学 附属図書館	公立大学法人 三重県立看護大学	〒514-0116	津市夢が丘1-1-1	(059)233-5608	(059)233-5668
三重短期大学 附属図書館		〒514-0112	津市一身田中野157	(059)232-2341	(059)232-9647

役員館一覧

東海地区大学図書館協議会役員館一覧（平成16年度～令和5年度）

年度	総会 当番館	研修会 会場館	会長館	運営委員会	機関誌編集 委員会	監事会	研修企画 小委員会	ホームページ 小委員会
				会長 国立3、公立3、私立4（短大1を含む） オブザーバ：総会当番館	会長 編集委員は会長の 指名	総会で選出、監事 館の図書館長が監 事となる	会長館 国立、公立、私 立の運営委員館 から各1館 研修会会場館	会長館 国立、公立、私 立の運営委員館 から各1館
平成 16 年度	南山大学	名古屋 大学 岐阜大学	名古屋 大学	浜松医科大学 三重大学 名古屋工業大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 ／静岡県立大学短期大学部（H17） 南山大学 中京大学 東海女子大学 名古屋経済大学短期大学部	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 金城学院大学	名古屋大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 中京大学 研修会会場館	
平成 17 年度	名古屋 工業大学	中京大学 名古屋大 学						
平成 18 年度	名城大学	岐阜県立 看護大学 名古屋大学	名古屋 大学	静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知教育大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 静岡県立大学短期大学部（H18） ／三重短期大学（H19） 名城大学 中部大学 中京女子大学 名古屋柳城短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 南山大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 中部大学 研修会会場館	名古屋大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 中京女子大学
平成 19 年度	愛知県立 芸術大学	名古屋大学 中部大学						
平成 20 年度	愛知淑徳 大学	浜松医科 大学 名古屋大学	名古屋 大学	岐阜大学 浜松医科大学 三重大学 愛知県立看護大学（H20） ／愛知県立大学（H21） 名古屋市立大学 津市立三重短期大学 愛知淑徳大学 同朋学園大学 豊田工業大学 鈴鹿短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 同朋学園大学	名古屋大学 三重大学 名古屋市立大学 豊田工業大学
平成 21 年度	名古屋 大学	同朋学園 大学 名古屋大学						
平成 22 年度	名古屋外 国語大学・ 名古屋学 芸大学	静岡県立 大学 名古屋大学	名古屋 大学	名古屋工業大学 静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 豊橋創造大学 名古屋学院大学 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 愛知淑徳大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 豊橋創造大学 静岡県立大学	名古屋大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 名古屋学院大学
平成 23 年度	名古屋市 立大学	豊橋創造 大学 名古屋大学						
平成 24 年度	中京大学	三重大学 名古屋大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 浜松医科大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 静岡県立短期大学部 中京大学 名古屋経済大学 名古屋芸術大学 名古屋柳城短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学	名古屋大学 岐阜大学 愛知県立大学 名古屋経済大学 三重大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 名古屋芸術大学
平成 25 年度	静岡大学	名古屋経 済大学 名古屋大学						
平成 26 年度	中部大学	愛知県立 芸術大学 名古屋大学	名古屋 大学	静岡大学 名古屋工業大学 三重大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 津市立三重短期大学 中部大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 名古屋商科大学 名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	岐阜薬科大学 中京大学	名古屋大学 静岡大学 愛知県立大学 名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学 愛知県立芸術大学	名古屋大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 名古屋商科大学
平成 27 年度	愛知県立 大学	名古屋外 国語大学・ 名古屋学 芸大学 名古屋大学						

年度	総会 当番館	研修会 会場館	会長館	運営委員会	機関誌編集 委員会	監事会	研修企画 小委員会	ホームページ 小委員会
				会長 国立3、公立3、私立4（短大1を含む） オブザーバ：総会当番館	会長 編集委員は会長の 指名	総会で選出、監事 館の図書館長が監 事となる	会長館 国立、公立、私 立の運営委員会 から各1館 研修会会場館	会長館 国立、公立、私 立の運営委員会 から各1館
平成 28 年度	名古屋 学院大学	名古屋工業 大学 名古屋大学	名古屋 大学	岐阜大学 愛知教育大学 豊橋技術科学大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 名古屋学院大学 南山大学 同朋大学・名古屋造形大学 桜花学園大学・名古屋短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	岐阜薬科大学 中京大学	名古屋大学 愛知教育大学 愛知県立大学 南山大学 名古屋工業大学	名古屋大学 愛知教育大学 名古屋市立大学 同朋大学・名古屋 造形大学
平成 29 年度	豊橋技術 科学大学	名古屋大学					名古屋大学 愛知教育大学 愛知県立大学 南山大学	
平成 30 年度	愛知大学	名古屋女子 大学	名古屋 大学	浜松医科大学 三重大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 静岡県立大学短期大学部 愛知大学 名古屋女子大学 日本福祉大学 岐阜保健短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名古屋学院大学	名古屋大学 浜松医科大学 愛知県立大学 愛知大学 名古屋女子大学	名古屋大学 三重大学 名古屋市立大学 日本福祉大学
令和 元 年度	静岡文化 芸術大学	名古屋大学					名古屋大学 浜松医科大学 愛知県立大学 愛知大学	
令和 2 年度	日本福祉 大学	三重県立 看護大学	名古屋 大学	静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知教育大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 三重短期大学 日本福祉大学 藤田医科大学 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 愛知大学	名古屋大学 静岡大学 愛知県立大学 人間環境大学 三重県立看護大学	名古屋大学 豊橋技術科学大 学 名古屋市立大学 藤田医科大学
令和 3 年度	愛知教育 大学	名古屋大学					名古屋大学 静岡大学 愛知県立大学 人間環境大学	
令和 4 年度	愛知工業 大学	名城大学	名古屋 大学	岐阜大学 浜松医科大学 三重大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 愛知工業大学 名城大学 聖隷クリストファー大学 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部附属図書館	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 日本福祉大学	名古屋大学 三重大学 愛知県立大学 愛知工業大学 名城大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 聖隷クリスト ファー大学
令和 5 年度	岐阜県立 看護大学 情報科学 芸術大学 学院大学 岐阜薬科 大学	名古屋大学					名古屋大学	

研修会一覧

東海地区大学図書館協議会研修会一覧（平成元年度～令和5年度）

年度	年月日	会場	演題	講師	所属
平成元	元.12.5	名城大学	学術情報サービスの展開と大学図書館 アダム・スミスの蔵書をめぐって	門條 司 水田 洋	化学情報協会 名城大学
	2.1.31	名古屋大学	大学図書館の未来像	丸山昭二郎	鶴見大学
2	2.11.29	名古屋大学	Collection buildingについて 大学図書館とニュー・メディア	川原 和子 橋爪 宏達	三重大学 学術情報センター
	3.1.30	大同工業大学	『経済学文献季報』のデータベース化について－KEISから KEIS IIへ 私の日本の古典文献とのつきあい	山内 隆文 朝倉 治彦	名古屋学院大学 四日市大学
3	3.11.8	名古屋学院大	ドイツ及び英国の図書館事情 江戸時代の出版	牧村 正史 長島 弘明	名古屋大学 名古屋大学
	4.1.17	愛知県図書館	目録システムにおけるハイパーテキストの適用可能性 新図書館概要説明及び見学	石塚 英弘 鈴木 康之	図書館情報大学 愛知県図書館
4	4.10.21	南山大学	慶應義塾大学の新しい試み－マルチメディアの統合－ 図書館の施設計画に関連して	原田 悟 加藤 彰一	慶應義塾大学 名古屋大学
	5.3.19	名古屋大学	カリフォルニア大学バークレー校の図書館システム 電子情報サービスの新しい展開	棚橋 章 寺村 謙一	名古屋大学 丸善㈱
5	6.1.26	施設見学会：けいはんなインフォザール			
	6.3.23	愛知医科大学	シーボルトと中京の学者たち 大学図書館におけるコレクション形成・管理の意義と問題点	武内 博 三浦 逸雄	東京学芸大学 東京大学
6	6.12.6	愛知学院大学	アメリカ図書館最新事情 地域・館種を越えた図書館サービス－すべての図書館をすべての利用者に－	渡辺 和代 川瀬 正幸 雨森 弘行	名古屋アメリカンセンター 名古屋大学 三重県立図書館
	7.2.22	施設見学会：三重県図書館			
7	7.10.27	名古屋大学	鯨と捕鯨の文化史 研究図書館としての電子図書館の事例－機能と運営－	森田 勝昭 渡辺 博	甲南女子短期大学部 奈良先端科学技術大学院大学
	7.12.7	愛知工業大学	シンポジウム：利用者教育の在り方－方法と問題点－	光齋 重治 高橋 一郎 四谷あさみ 堀 茂 金子 豊	中部大学 愛知県立大学 愛知淑徳大学 名古屋大学 名古屋大学
8	8.10.24	名古屋大学	インターネット、イントラネットを前提とした図書館情報サービスの将来 電子図書館の諸相：US Berkeley Digital Library ProjectとAriadne97	後藤 邦夫 谷口 敏夫	南山大学 光華女子大学
	8.12.4	愛知淑徳大学	シンポジウム：NDC新版9版について	石山 洋 万波 涼子 中井えり子 酒井 信	東海大学 名古屋市立大学 名古屋大学 名城大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
9	9.10.30	名古屋大学	英国大学図書館における電子情報サービスの進展 フランス国立図書館BNF	尾城 孝一 篠田知和基	東京工業大学 名古屋大学
	9.12.10	朝日大学	講演 歌うコンピュータ・描くコンピュータ－マルチメディア時代への布石－ フォーラム：マルチメディアと電子図書館－図書館機能におけるホームページ－	板谷 雄二 津田 明美 林 哲也 鈴木 康生 三浦 基	朝日大学 愛知工業大学 浜松医科大学 名古屋大学 南山大学
10	10.12.5	名古屋大学	テーマ：電子ジャーナルの”いま”と”こんご” 講演 デジタルメディアの現状と今後 電子ジャーナルの事例報告 EES, Science Direct FirstSearch, FirstSearch ECO Journals@ovid, HighWire Press	逸村 裕 エルゼビア 紀伊國屋書店 ユサコ	愛知淑徳大学
	10.12.16	岐阜経済大学	テーマ：大学図書館における電子情報サービスの実際 ネット時代の教育・研究環境と図書館の活用 電子情報サービスの事例報告	松島 桂樹 安田多香子 野村 千里 夏目弥生子	岐阜経済大学 愛知県立大学 南山大学 名古屋大学
11	11.11.2	名古屋大学	テーマ：著作権法と大学図書館 大学図書館にかかわる著作権問題 電子図書館サービスと著作権	石倉 賢一 山本 順一	千葉大学 図書館情報大学
	11.12.7	岐阜女子大学	テーマ：大学図書館と学生用図書 大学教育改革と学生用図書 事例報告	柴田 正美 江口 愛子 吉根佐和子 福井 司郎	三重大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 中京大学
12	13.1.18	愛知教育大学	テーマ：大学図書館における相互協力 大学図書館における相互協力 事例報告	石井 啓豊 平井 芳美 濱口 幾子 加藤 直美	図書館情報大学 名古屋大学 愛知県立看護大学 愛知工業大学
	13.3.9	名古屋大学	テーマ：大学図書館の管理・運営 大学図書館の管理・運営 コンソーシアムを視野においた大学図書館の運営	長谷川豊祐 松下 鈞	鶴見大学 国立音楽大学
13	13.12.20	大同工業大学	テーマ：古文書の整理と保存：電子メディア変換（画像）による利用について 講演 古文書の整理と保存 事例報告 徳島大学附属図書館貴重資料高精細デジタルアーカイブ－21世紀地域ネットワークへの試み－	秋山 晶則 岡田 恵子	名古屋大学 徳島大学
	14.1.24	名古屋大学	テーマ：図書館の電子化と所蔵資料を核とした地域との連携 デジタル時代の図書館 所蔵資料の高度活用を目指して－地域の博物館・図書館等の連携－	逸村 裕 種田 祐司	名古屋大学 名古屋市博物館
14	14.12.13	名古屋大学	テーマ：学術情報の電子化を考える 講演 学術情報の電子化が意味するもの－研究者の立場から考える－ 事例報告 名古屋大学における電子ジャーナルの現状について	倉田 敬子 澄川千賀子・ 川添 真澄	慶應義塾大学 名古屋大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
14	15. 3. 4	名古屋市立大学	テーマ：現代の大学図書館と著作権 講演 現代の大学図書館と著作権	土屋 俊	千葉大学
15	15.12.15	名古屋大学	テーマ：図書館のサービス・マネジメントと評価 講演 図書館のサービス・マネジメント：顧客の選好と評価	永田 治樹	筑波大学
	16. 2.19	椙山女学園大学	テーマ：SPARCの現状とSPARC/JAPANの今後について 講演 SPARCの現状とSPARC/JAPANの今後について	安達 淳	国立情報学研究所
16	16.12.17	名古屋大学	テーマ：電子的学術情報利用の進展と今後の展望 事例報告 名古屋大学の電子図書館化計画－機関リポジトリ構築計画を中心にして－ 医学系図書館の電子ジャーナル状況と日本医学図書館協会電子ジャーナルコンソーシアムの現状 電子ジャーナルの利点と課題－サイエンス・ダイレクトを例に－	郡司 久 坪内 政義 高橋 昭治	名古屋大学 愛知医科大学 エルゼビアジャパン
	17. 3. 3	ばるるプラザ G I F U	テーマ：大学図書館におけるアウトソーシング 事例報告 日本福祉大学付属図書館におけるアウトソーシング アウトソーシングを活用した大学図書館運営－立命館大学における現状と課題－ アウトソーサーからみたアウトソーシング	岡崎 佳子 田中 康雄 図書館流通センター	日本福祉大学 立命館大学
17	17.12. 2	中 京 大 学	テーマ：図書館情報リテラシー指導の現状－各大学の事例報告－ 基調講演 大学図書館と情報リテラシー	逸村 裕	名古屋大学
			事例報告 名古屋大学附属図書館における情報リテラシー教育 図書館情報リテラシー教育－小さな図書館、小さな学部での試み－ 中京大学図書館 情報リテラシー教育の現状 ニッチ戦略（隙間産業）で、大学に貢献できる情報リテラシー教育支援を目指す－三重大学附属図書館の取組－ 岐阜県立看護大学図書館における利用教育 大学ポータルを中心とした名古屋学院大学の情報環境	次良丸 章 原 泰子 春日井 正人 杉田 いづみ 井上 貴之 中田 晴美	名古屋大学 名古屋市立大学 中京大学 三重大学 岐阜県立看護大学 名古屋学院大学
	18. 1.30	名古屋大学	テーマ：利用者サイドに立つ図書館サービス 講演 北米大学図書館における利用者中心の図書館サービス 利用者の利用行動に基づいた図書館サービス	シャロン・ドマイヤー 越塚 美加	マサチューセッツ大学 学習院女子大学
18	19. 1.12	岐阜県図書館	テーマ：大学図書館の地域連携 事例報告 相互利用協定と愛知県内図書館のILL定期便設置実証実験 静岡県内の大学図書館における連携について 岐阜県における公共図書館との連携図書館 東海目録（TOMcat）：病院図書室と大学図書館の連携 図書館の教育支援、地域支援：豊田高専の英語多読を通して	村上 昇平 大石 博昭 木村 晴茂 坪内 政義 西澤 一	愛知県図書館 静岡大学 岐阜大学 愛知医科大学 豊田工業高等専門学校
	19. 3. 7	名古屋大学	テーマ：Web2.0時代の図書館サービス 基調講演 Web2.0時代の図書館 講演 図書館利用者の情報探索活動に関する実証的研究 Web2.0時代の新たな図書館サービスの展開	岡本 真 寺井 仁 林 賢紀	Academic Resource Guide 名古屋大学 農林水産省

年度	年月日	会場	演 題	講 師	所 属
19	19.11.28	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル，データベース等） 図書館情報リテラシー教育 ILL 大学図書館の最近の動向・海外事情	雨森 弘行 河谷 宗徳 栗野 容子 紅露 剛 万波 涼子 松林 正己	お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学 南山大学 名古屋市立大学 中部大学
	20. 3. 5	中部大学	テーマ：魅力ある大学図書館をめざして 講演 どこから拓く？ 大学図書館の可能性－学習支援の視点から どこから拓いた－お茶大図書館活性化のための5つの作戦	井上 真琴 茂出木 理子	同志社大学 お茶の水女子大学
20	20.12.22	アクトシティ浜松	テーマ：図書館と著作権 講演 図書館業務と著作権 映像資料の利用と著作権法について	南川 貴宣 三浦 正広	文化庁著作権課 国士舘大学
	21. 3. 4	西尾市岩瀬文庫	テーマ：学芸員の世界 岩瀬文庫見学 講演 学芸員の仕事 －内藤記念くすり博物館の世界－ 学芸員の仕事 －岩瀬文庫の世界－	野尻 佳与子 林 知左子	内藤記念くすり博物館 西尾市岩瀬文庫
21	21.12. 3	同朋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル，データベース等） 情報リテラシー教育 ILL 大学図書館と広報	雨森 弘行 河谷 宗徳 栗野 容子 久田 睦美 榊原 佐知子 渡邊 敏之	前お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 愛知医科大学 名古屋造形大学
	22. 2.23 22. 3. 5 22. 3.10	名古屋大学	保存修復講演会・講習会 テーマ：図書資料の保存と修復 講演 紙資料の保存修復 講習会 修復実務講習会	金山 正子 岩田 起代子	元興寺文化財研究所 前名古屋産業大学・ 名古屋経営短期大学 図書館
22	22.12. 9	名古屋大学	テーマ：実践で役立つレファレンス・ツール ― 国立国会図書館提供ツールを中心に ― 講義1 講義2	兼松 芳之	国立国会図書館
	23. 3.16	静岡県男女 画一 共同参 画一 あざれあ	テーマ：電子書籍を中心とした資料のデジタル化の動向と図書館の今後 講演 変革期のデジタル化と図書館―国立国会図書館の動向を中心に― 電子書籍の急速な普及と大学図書館	中井 万知子 竹内 比呂也	国立国会図書館関 西館 千葉大学
23	23.12.15	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル，データベース等） ILL プレゼンテーション入門 カナダの大学図書館事情	加藤 信哉 河谷 宗徳 堀 友美 万波 涼子 近田 政博 ゴードン・ コールマン	名古屋大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 名古屋大学 静岡大学
	24. 3. 8	名古屋大学	テーマ：災害時における危機管理 事例報告 そのとき私たちができたこと－東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災－ 私の東日本大震災体験－図書館の被害と復旧を中心として	小陳 左和子 和知 剛	東北大学 郡山女子大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
24	24.12.15	名古屋大学	テーマ：海外大学図書館にみる学習支援 報告 香港、シンガポール、オーストラリアの大学図書館におけるラーニング・commonsの整備及び学習支援の現状 講演 大学図書館が実施する学習支援・教育支援サービス 北米の事例から見えるもの パネルディスカッション	山田 政寛 橋 洋平 森部 圭亮 仲秋 雄介 池上佳芳里 高橋 里江 神谷 知子 長澤 多代 近田 政博 (コーディネーター)	金沢大学 金沢大学 静岡大学 名古屋大学 金沢大学 静岡大学 名古屋大学 三重大学 名古屋大学
	25. 3.13	三重大学	テーマ：図書館資料の補修について 講義 図書館における資料保存の基本的な考え方 実習 簡易な補修 - 破れのつくろい、外れたページの差し込み	大竹 茂 大竹 茂	国立国会図書館 国立国会図書館
25	25.12.13	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 激動の時代を生き抜くために 情報リテラシー教育 ILL (相互貸借) 電子情報 (電子ジャーナル, 電子ブック、データベース等) 分類・目録 プレゼンテーション入門	白木 俊男 新海 弘之 草間 知美 島田 美津穂 林 和宏 揚野 敏光 近田 政博	富山大学 愛知県立大学 愛知大学 名古屋工業大学 名古屋大学 名古屋大学
	26. 3. 3	名古屋経済大学 (名駅サテライト キャンパス)	テーマ：西洋古典籍資料の整理・保存について 講演 歴史的製本の修理について 洋書の扉	岡本 幸治 高野 彰	製本家 元跡見学園女子大学
26	26.12.19	愛知県図書館	テーマ：「機関リポジトリの基礎知識と最新動向」 講演 学術コミュニケーションの動向 機関リポジトリの実務 著作権・学位論文を中心に 事例報告 地域からの事例報告 全体質疑・意見交換	杉田 茂樹 三隅 健一 林 和宏 宮坂 昌樹 鈴木 雅子 (コーディネーター)	千葉大学 北海道大学 名古屋工業大学 愛知大学 静岡大学
	27. 2.16	静岡大学 (浜松キャンパス)	※静岡県大学図書館協議会と共催 テーマ：学生を振り向かせる！ 伝わるポスター作成術 講演 基礎) ポスター、チラシ、プレゼンテーションに必要な要素 理論) コミュニケーション理論から見た広報 実践) 便利なツール、テクニック、キャッチコピーの つくり方 広報カウンセリング ポスターを作ってみよう	はやのん	理系漫画家
27	27.12. 7	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 「最近の図書館の動向 ～素敵な図書館と素敵なライブラリアンとの出会い～」 情報リテラシー教育 ILL (相互貸借) 電子情報 (電子ジャーナル, データベース等) 分類・目録 グループ討議・発表	中村 直美 松森 隆一郎 加藤 直美 吉岡 文 小島 由香	愛知大学 愛知県立大学 愛知工業大学 浜松医科大学 名古屋大学
	28. 3. 7	名古屋外国語大学 ・ 名古屋学芸大学	テーマ：伝わる声の出し方・話し方 講演 (実習含む)	赤間 裕子	声と話し方コンサル タント

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
28	28.11.22	名古屋大学	テーマ：無線綴じ資料の補修 講演（実習含む）	板倉 正子	特定非営利活動法人 書物の歴史と保存修復に関する研究会
	29. 2. 6	名古屋工業大学	テーマ：古典籍の基礎知識 講演 洋古典籍はどんな姿をしているのか 水田文庫整理にたずさわって 古典籍書誌DBのすすめ	高野 彰 中井 えり子 塩村 耕	元跡見学園女子大学 元名古屋大学 名古屋大学
29	29.11.17	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 レファレンス（現場からの具体的な事例紹介） 図書館若手職員の経験談	佐藤 美穂 井出 直樹 東横 典子 鰐部 美香 押樋 良樹	名古屋大学 静岡文化芸術大学 名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学 名古屋大学 図書館コミュニケーションデザイナー
			これからの図書館に期待するもの 演習 広報・展示：朝刊の記事からpopを作り、2時間以内に 資料を展示－安城市図書館「日めくり展示」にチャ レンジー 担当業務別グループによる討議・発表		
30	31. 2.14	名古屋女子大学	テーマ：利用者と図書館をつなぐ空間づくり 講演 ワークショップ1 利用者の目線を考える ワークショップ2 空間のイメージをつかむ	尼川 ゆら	空間演出 コンサルタント
令和元	元.12. 9	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 基調講演 大学図書館の今とこれから 講義 情報リテラシー 電子情報 ILL 目録・分類 グループによる討議・発表	佐藤 翔 柴田 佳寿江 林 和宏 浅見 沙矢香 植島 隆教	同志社大学 三重大学 名古屋大学 名古屋大学 愛知県立大学
2	2.12.10	オンライン開催 当番：三重県立 看護大学	テーマ：インフォデミックと図書館：ポストコロナ・AI 時代に図書館員が生き残るには 講演 インフォデミックと図書館：ポストコロナ・AI時代に 図書館員が生き残るには	佐藤 正恵	司書・ヘルスサイ エンス情報専門員 (上級)
3	4. 2.18	オンライン開催 名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 基調講演 大学図書館の今とこれから 講義 資料の整理 業務全般 COVID-19と図書館サービス 社会貢献 グループ討議・発表「今とこれからのを考える」	佐藤 翔 植島 隆教 大橋 梨沙 揚野 敏光 福井 啓介	同志社大学 愛知県立大学 人間環境大学 名古屋大学 岐阜大学
4	5. 2. 1 ~2.28	名城大学	テーマ：大学図書館の活動を可視化するデータ活用 研修動画のオンデマンド配信 大学図書館の活動を可視化するデータ活用の実務 －図書館利用統計・学術情報基盤実態調査・決算デー タ・利用者アンケートから－		
5	5.11. 9	オンライン開催 名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 基調講演 大学図書館、変わるコト、変わらないコト 講義 DXと図書館サービス 業務全般 オープンサイエンス グループ討議・発表「課題を共有しよう」	小山 憲司 花原 稔 尾関 祐司 端場 純子	中央大学 三重大学 丸善雄松堂株式会社(名城大学) 名古屋大学

「東海地区大学図書館協議会誌」掲載記事の電子的公開，転載，学術機関リポジトリでの公開について

- ・著作権は著作者本人にあります。
- ・著作者本人が，ホームページ等で電子的公開，転載，あるいは学術機関リポジトリへ搭載する場合，著作者本人からの申請書等の提出は必要ありません。

(平成19年7月9日 東海地区大学図書館協議会運営委員会(第19-1回)決定)

東海地区大学図書館協議会誌 第68号(2023)

令和5年12月22日発行

編集・発行 東海地区大学図書館協議会事務局
名古屋市千種区不老町 名古屋大学附属図書館内
電話 052-789-3666

ホームページ <https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tokai/>

